

5. せんぐう館夜の特別開館「来た！見た！わかった！伊勢神宮」

【事業概要】 夏休み期間中のお子様の学習機会として、普段はあまり博物館へ足を運ぶ機会が無い方にも親しんでいただける様に企画しました。入館時間を延長して夜間の展示観覧に供し、特別企画としてガイドを実施しました。また勾玉池をライトアップし、館内からの眺望を演出しました。

【付 記】 館内ガイドツアーについて（1日2回開催：各30分程度）
第1部 「日々のおまつりと神さまのお引っ越し」 16時30分～
・展示室1～4室をガイド
第2部 「神さまのお住まいと祈りのかたち」 17時30分～
・展示室5～6室をガイド

一日目

【日 時】 8月10日（土）18時30分まで

【参加人数】 延長時間の入館者 211名（ガイド参加者 合計15名）

二日目

【日 時】 8月11日（日）18時30分まで

【参加人数】 延長時間の入館者 129名（ガイド参加者 合計15名）



6. 多言語音声端末の利用状況

【概要】 平成25年3月に国土交通省中部運輸局の外国人観光客受入環境整備事業の一環としてせんぐう館をモデルとした多言語音声端末導入調査が行われました。事業終了後、館に寄贈された多言語音声端末は、外国人受入環境の充実と来館者の満足度向上へ繋げるものとして、せんぐう館の日常業務の中で貸出しを行うこととしました。

【導入時期】 平成25年4月24日（水）

【内 容】 ①「多言語端末（音えんぴつ）」20機（英語・中国語・韓国語・台湾語）

②「展示案内マップ」各言語30枚（予備10枚含む）

『多言語端末（音えんぴつ）』はペンのかたちをした音声ガイド端末で多言語の音声再生ができる。長さ約16cm、重さ約50gでストラップを首からかけて誰でも手軽に利用できる。

専用の館内展示マップに『多言語端末（音えんぴつ）』でタッチすると端末から展示解説の音声流れる。

【運用方法】 せんぐう館受付にて貸出案内を掲示、外国人来館者から申し出があれば無料で貸出しをする。

①貸出時に保証金（1,000円）を預かる（返却時返金）

②申し込み用紙に住所・氏名・電話番号を記入してもらう

③音声端末、展示案内マップをセットで貸し出す

【貸出対象】 外国人：英語圏・アジア圏（中国・韓国・台湾）



■受付利用案内

多言語音声ガイド
A voice guide is available.
音声ガイド、貸出いたします。

センター 受付

Use guidance

- A usage fee is no charge.
(使用料金は無料です。)
- Please deposit guarantee money to borrow.
- Guarantee money: 1000yen
(保証金は借用時に、返却後返します。)
- You enter an application form to borrow.
(貸出時、申込用紙に記入いただきます。)
- Please be sure to keep the audio guide on your neck while you see it.
(音声端末は必ず、お持ち帰ってご利用下さい。)
- *The audio guide might not be available when we have no stock or during the maintenance.
(在庫切れの際やメンテナンスの際、お貸しできない場合があります。)
- *Handle it with care, please.
(お取り扱いの際は、ご注意ください。)

■申し込み用紙

Audio Guide Application form(音声端末 申込用紙)
平成 年 月 日

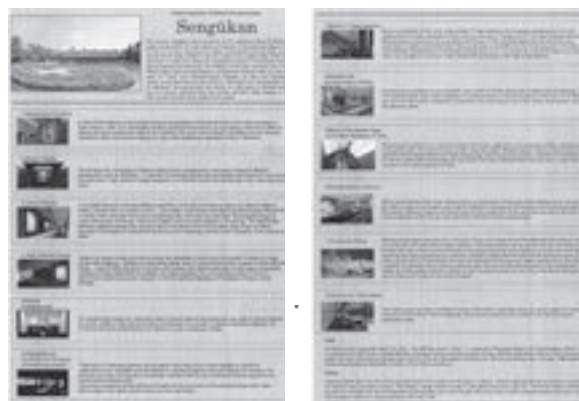
Address (住所)			
Name (氏名)		Date of birth (生年月日)	Age (年齢)
Phone (電話) or Mobile Phone (携帯電話)		貸出時刻	受付
端末 No.	言語	返却時刻	返却確認
英・中・韓・台		:	

■展示案内マップ（音声端末で番号もしくは写真にタッチする）



■各言語展示解説シート（英・中・韓・台）

※音声端末を利用されない外国人来館者に配布。



■利用の様子



【利用状況】 平成 24 年 4 月 24 日から 331 日間

言語	件数	1 日平均
英 語	459	1.4
中国語	55	0.2
韓国語	20	0.1
台湾語	31	0.1
合計	565	1.7

【利用概観】 参拝を目的とした来館者状況であり、館の滞在時間はおのずと限られているが、時間的制約がある中で使いやすさと適度な情報量が好評を得ており、補完ツールとしての一定の役割を果たしている。今後も要望に応じ積極的に活用していきたい。

○奉納行事

1. 舞踊・合唱・伝統芸能・武道など

日時		演 目	奉 納 者
4 月 6 日 (土)	13 時 30 分	能楽・仕舞・連吟	観世流梅若一門
4 月 7 日 (日)	13 時 30 分		
4 月 20 日 (土)	10 時	木遣り	御白石奉献団
4 月 21 日 (日)			

5月4日(土)	13時	声楽	野々村彩乃
5月5日(日)	10時	合唱	伊勢少年少女合唱団
6月8日(土)	11時	神楽奏行 140 周年記念舞楽 (蘭陵王・貴徳)	
6月9日(日)	11時		
6月16日(日)	15時30分	メダカの放流	外宮にぎわい会議
6月23日(日)	13時	舞踊 「太陽の船 ー光の地平を寿ぎてー」	NPO 法人アカルプロジェクト
7月13日(土)	12時	生け花 「世界に送る平和の花」	鎮守の森イベント2013年
7月20日(土)	19時	第25回神宮奉納 伊勢薪能	伊勢能楽連盟
7月21日(日)	13時	演奏 「お白石奉獻の想いを曲 に託して」	株式会社伊勢之里
8月1日(木)	15時	ゆかたで千人お参り	外宮にぎわい会議
9月1日(日)	13時	今様合・白拍子舞	日本今様譚舞楽会
10月11日(金)	11時	遷宮奉祝舞楽 (振鈴・斎庭舞・萬歳楽)	
10月12日(土)	11時	遷宮奉祝舞楽 (斎庭舞・延喜楽)	
10月13日(日)	11時	遷宮奉祝舞楽 (斎庭舞・納曽利・長慶子)	
11月4日(月)	11時	木場木遣	木場木遣保存會木響会
11月6日(水)	10時	本吉太々法印神楽	宮城県神社庁気仙沼支部神楽保存会
11月7日(木)	14時30分	箏曲	伊勢商工会議所 まつりと伊勢文化委員会
11月8日(金)	11時	演劇「花音(カノン)」	特定非営利活動法人 ルートカルチャー
12月25日(水)	10時	神宮奉納餅つき	伊勢市観光協会
3月10日(月)	14時30分	楽器演奏「“むすび” -St.CORE-」	笹川日仏財団
3月21日(金)	14時	和太鼓演奏	深川神社子供太鼓こまいぬ座

3月22日(土)	13時30分	熱田神楽	熱田神楽保存会
3月24日(月)	14時	能楽	皇學館大学能楽研究会
3月30日(日)	10時30分	音楽 「心に響く世界の音楽 日本のうた」	ふるさと感謝プロジェクト
	14時30分	ピアノ演奏 「地球への贈りもの 光と彩と響き〈こころ〉」	奥村まなぶ

2. 遷宮奉祝奉納行事

10月18日(金)	13時	富山県射水市・三ヶ錦町獅子舞保存会 獅子舞
	14時	静岡県周智郡森町・天宮神社十二段舞楽保存会 天宮神社十二段舞楽
10月19日(土)	10時30分	長野県須坂市・上八町郷土芸能保存会 上八町太神楽・赤熊
	13時	高知県高岡郡桺原町・檮原町津野山神楽保存会 津野山神楽
10月20日(日)	9時	山梨県南都留郡富士河口湖町・河口稚児の舞保存会 河口稚児の舞
	10時30分	東京都府中市・府中囃子保存会 府中囃子
	13時	徳島県吉野川市・川東名神代御宝踊り保存会 川東名神代御宝踊り
	14時30分	千葉県・四條流保存会 四條流包丁儀式
10月22日(火)	10時30分	青森県弘前市・津軽神楽保存会 津軽神楽
10月23日(水)	13時	岐阜県高山市・飛騨東照宮おかめ獅子舞保存会 飛騨東照宮おかめ舞獅子舞
10月24日(木)	10時30分	北海道北斗市・松前神楽北海道連合保存会(松前・函館) 松前神楽
10月26日(土)	10時30分	神奈川県足柄下郡箱根町・宮城野獅子舞保存会 箱根湯立獅子舞
	13時	山梨県笛吹市・美和神社太々神楽保存会 美和神社太々神楽
	14時30分	北海道釧路市・北海道くしろ蝦夷太鼓保存会 くしろ蝦夷太鼓

10月27日(日)	9時	新潟県長岡市・新潟県三島伶仁会 大々御神楽舞
	10時30分	愛媛県松山市・伊予里神楽保存会・惟神会 伊予里神楽
	13時	大分県玖珠郡九重町・玖珠神楽神祇会 玖珠神楽
	14時30分	東京都新宿区・日本古武道振興会 古武道
11月3日(祝)	10時30分	京都府宮津市・籠神社奉祝行事奉納団 太刀振り
	13時	熊本県阿蘇郡小国町 尾園三輪神楽
	14時30分	熊本県阿蘇郡小国町 宮原祇園社獅子舞

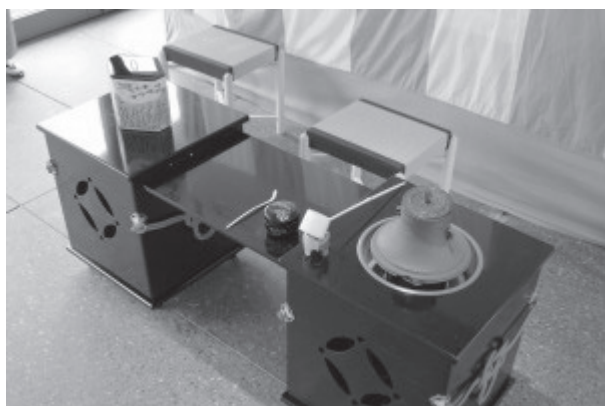
3. 野点茶会（伊勢茶道協会 奉仕）

①平成25年4月6日(土) 午前10時～午後1時

【場 所】 外宮休憩所

【定 員】 せんぐう館入館者先着200名

【奉仕者】 伊勢茶道協会裏千家・堀崎宗正



掛け物 色紙 「清々しく瑞々しく」 神宮大宮司鷹司尚武筆

香合 造宮残材桧香合 皇大神宮御鎮座2000年記念

花入 耳付朝鮮唐津写 松古窯 佐久間芳丘造

花 牡丹

茶器 躍り桐平棗 一瓢斎作 鵬雲斎大宗匠在判

茶碗 菊花御本三島 松阪万古4代 佐久間勝山造

二見興玉神社神器水碗形 松阪万古4代 佐久間勝山造

黄瀬戸 美濃不二窯 佐藤和子造
 雲錦手天目形 松阪万古5代 佐久間芳山造
 菊唐花菱盛絵 四日市万古3代 清水酔月造・清水きし代絵
 水指 鳴海織部六角菱 美濃不二窯 佐藤和子造
 菓子器 イジイジ塗桑名薄盆 6代山本翠松作
 干菓子 紅白まがたま



②平成25年4月7日(日) 午前10時～午後1時

【場 所】 外宮休憩所

【定 員】 せんぐう館入館者先着200名

【奉仕者】 伊勢茶道協会裏千家・谷睦美



掛け物 色紙 「清々しく瑞々しく」 神宮大宮司鷹司尚武筆
 花入 朝鮮唐津大徳利
 花 黄花片栗・錨草・花筏
 棚 御園棚 淡々斎好
 釜 富士羽釜 古鏡蓋付 和田美之助造
 水指 鳴海織部六角菱 美濃不二窯・佐藤和子造



茶器 花鳥中棗 川端近左作 鵬雲斎大宗匠在判
 茶杓 大徳寺515世管長 藤井誠堂作 銘 「花曇」
 茶碗 醍醐の花見 松阪万古5代、佐久間芳山造
 春の野 松古窯、佐久間芳丘造
 雲錦手天目形 佐久間芳山造
 菊唐花菱盛絵 四日市万古3代、清水醉月造・清水きし代絵
 蓋置 交趾蝶 中村翠嵐造
 菓子器 イジイジ塗桑名盆 6代山本翠松作
 干菓子 紅白まがたま

③平成25年4月13日（土）午前10時～午後1時

【場 所】 外宮休憩所

【定 員】 せんぐう館入館者先着200名

【奉 仕 者】 伊勢茶道協会表千家・野村君子



花 薔椿・木五倍子・蔓桔梗
 釜 浜松文鶴首 般若勘溪造
 棚 末広棚 即中斎好
 水指 鳴海織部六角菱 美濃不二窯 佐藤和子造

茶器 蝶に春草蒔絵中棗 山中塗
 茶杓 龍宝山大徳寺塔頭黄梅院20世住職 小林太玄作 銘 「彩鳳」
 茶碗 七福神緑金欄手 五山窯 林淡幽造
 雲錦手天目形 松阪万古5代 佐久間芳山造
 菊唐花菱盛絵 四日市万古3代 清水醉月造・清水きし代絵
 干菓子 紅白まがたま
 菓子器 神宮御山杉
 建水 曲げ
 蓋置 瓔珞文薩摩 玉陶山製



④平成25年4月14日（日）午前10時～午後1時

【場 所】 外宮休憩所

【定 員】 せんぐう館入館者先着200名

【奉 仕 者】 伊勢茶道協会表千家・野村君子



花 薔椿・木五倍子・蔓桔梗
 釜 浜松文鶴首 般若勘溪造
 棚 末広棚 即中斎好
 水指 鳴海織部六角菱 美濃不二窯 佐藤和子造

茶器 千鳥蒔絵中棗
 茶杓 龍宝山大徳寺塔頭黄梅院20世住職 小林太玄作 銘 「彩鳳」
 茶碗 伊勢海画賛 小津笹川庵筆 松阪万古3代 佐久間芳嶺造
 「日はうらら 朝の伊勢海 静かにて
 おきのかなたに 白帆三つ四つ 濱荻詠并画」
 雲錦手天目形 松阪万古5代 佐久間芳山造
 菊唐花菱盛絵 四日市万古3代 清水醉月造・清水きし代絵
 干菓子 まがたま
 菓子器 神宮御山杉
 建水 曲げ
 蓋置 瓔珞文薩摩 玉陶山製



⑤平成25年6月15日（土）午前10時～午後1時

【場 所】 外宮休憩所

【定 員】 せんぐう館入館者先着200名

【奉 仕 者】 伊勢茶道協会裏千家・高橋宗麗



掛け物 色紙 「清々しく瑞々しく」 神宮大宮司鷹司尚武筆
 花入 宗全籠
 花 甘草・春咲き秋明菊・絞り咲き河原撫子・仙翁・金糸梅
 棚 御園棚 淡々斎好
 釜 富士羽 和田美之助造
 水指 鳴海織部六角菱 美濃不二窯 佐藤和子造



茶器 早苗蛭 塚本規義作 即中斎好
 茶杓 杉井淡日庵（不然・宗員）作 銘 「岩清水」
 茶碗 御山杉に伊勢神宮御正殿絵 2代小川長楽造
 青楓 宮川香雲造
 雲錦手天目形 松阪万古5代、佐久間芳山造
 菊唐花菱盛絵 四日市万古3代、清水醉月造・清水きし代絵
 蓋置 青海波 佐久間芳山造
 菓子器 伊勢神宮御山杉
 干菓子 紅白まがたま



⑥平成25年6月16日（日）午前10時～午後1時

【場 所】 外宮休憩所

【定 員】 せんぐう館入館者先着200名

【奉 仕 者】 伊勢茶道協会裏千家・浅沼宗博



掛け物 色紙 「清々しく瑞々しく」 神宮大宮司鷹司尚武筆

花入 宗全籠 水谷六々斎造

棚 御園棚 淡々斎好 中村宗悦作

釜 古鏡蓋富士羽 和田美之助造

水指 鳴海織部六角菱 美濃不二窯 佐藤和子造



茶器 芦辺に流水蒔絵大棗 川端近左造 鵬雲斎大宗匠在判
 茶杓 納屋宗淡作 銘 「清泉」
 茶碗 仁清写 「五十鈴川」 永楽得全造 淡々斎箱
 菖蒲絵 三浦竹泉造 坐忘斎家元箱
 雲錦手天目形 松阪万古5代、佐久間芳山造
 菊唐花菱盛絵 四日市万古3代、清水醉月造・清水きし代絵
 蓋置 金鏤勝虫 一ノ瀬宗辰造
 煙草盆 手付銀杏透飛驒春慶
 火入 織部 佐久間芳山造
 菓子器 伊勢神宮御山杉片木
 干菓子 まが玉紅白紋菓



⑦平成25年6月22日（土）午前10時～午後1時

⑧平成25年6月23日（日）午前10時～午後1時

【場 所】 外宮休憩所

【定 員】 せんぐう館入館者先着200名

【奉 仕 者】 伊勢茶道協会裏千家・浅沼宗博



掛け物 色紙 「清々しく瑞々しく」 神宮大宮司鷹司尚武筆
 花 未央柳・百合水仙・鷹の羽薄・紫陽花
 花入 手付置籠 碌々斎好
 釜 浜松文鶴首 般若勘溪造
 棚 末広棚 即中斎好
 水指 鳴海織部六角菱 美濃不二窯 佐藤和子造



茶器 笹露蒔絵中棗 利休好
 茶杓 久田尋牛斎作 銘 「山里」 嵯峨之竹
 茶碗 赤楽 即中斎手造 銘「スダレ」 大樋長左衛門家にて
 替 雲錦手天目形 松阪万古5代 佐久間芳山造
 替 菊唐花菱盛絵 四日市万古3代 清水醉月造・清水きし代絵



干菓子 紅白まがたま
 菓子器 神宮御山杉片木
 建水 曲げ
 蓋置 火桶 松阪万古4代 佐久間勝山造

○報道取材、記事掲載への対応

①図版掲載 143件（雑誌記事への掲載、旅行パンフレットへの掲載など）

②取材依頼 103件

(新聞・雑誌などスチール撮影45件、テレビなどビデオ撮影58件)

○特記事項

1. 天皇皇后両陛下御来館

平成26年3月27日(木) 10時21分御着 11時11分御発

2. 建築各賞の受賞

①第54回BCS賞(一般財団法人 日本建設業連合会 主催)

②第23回AACA賞 優秀賞(一般社団法人 日本建築美術工芸協会 主催)

○主な行事・来館者

4月10日 (株)電通国際情報サービス 代表取締役社長 釜井節生氏来館

4月12日 神社本庁総合研究所「第百五回中堅神職研修会」受講者48名来館

4月16日 三協立山(株) 専務取締役 蒲原彰三氏来館

4月18日 (株)船藤鉄工所代表取締役社長 船藤幸生氏来館

4月20日 作家 竹田恒泰氏来館

4月22日 「多言語音声ガイド」試運用開始

5月8日 駐日サンマリノ共和国大使 マンリオ・カデロ氏他六名来館

5月10日 伊勢市立中島小学校教員生徒30名来館

5月16日 北京実業開発総公司11名来館

名古屋学院大学国際センター学生37名来館

5月17日 津田学園中学122名来館

5月18日 護衛艦「いせ」乗員137名来館

5月19日 護衛艦「いせ」乗員113名来館

5月20日 近畿ブロック知事会議出席者31名来館

5月23日 三重県立宇治山田商業高等学校教員生徒29名来館

5月25日 翻訳家 徳川家廣氏来館

かむながらのみち教主 北川慈敬氏来館

5月26日 閉館後展示替実施

5月27日 展示替実施につき臨時休館

5月28日 展示替実施。館内外の保守点検・管理運営作業

5月29日 新規展示について記者発表会開催

5月30日 第107回中堅神職研修受講生 39名来館
 6月2日 淡交会三重北支部 谷宗睦氏はじめ 33名来館
 6月3日 コクヨ(株)代表取締役社長 黒田章裕氏来館
 6月4日 全国和裁団体連合会会長 鈴木榮治氏来館
 日本商工連盟理事長 新井豊吉氏、伊勢神宮式年遷宮奉賛会事務局長 宅崎俊明氏来館
 6月6日 国家基本問題研究所理事長 櫻井よしこ氏来館
 6月8日 皇學館中学校教員生徒 57名来館
 6月19日 伊勢市立明倫小学校教員児童 59名来館
 6月21日 来館者数 50万人を記録
 6月28日 出雲國造家 北島建孝氏来館
 7月6日 神社本庁八光会・神宮神道青年会 42名来館
 7月9日 駐日ポーランド共和国特命全権大使 ツィリル・コザチェフスキ氏来館
 7月10日 東京都水天宮宮司 有馬頼央氏来館
 7月14日 伊勢神宮奉納全国花火大会審査委員・東京大学名誉教授 田村昌三氏始め 6名来館
 7月23日 展示替実施。館内外の保守点検・管理運営作業
 7月27日 臨時祭主 黒田清子ご夫妻来館
 7月30日 文化財建造物保存技術協会 八木誠一氏来館
 7月31日 皇學館大学特別招聘教授 田尾憲男氏、スリランカ民主社会主義共和国アマラプラ宗派最高幹部・日本サンガ主任僧正 ヤーラガムエ・ダンミッサラ氏来館
 8月1日 「伊勢神宮外宮さんゆかたで千人お参り」開催
 天地人「津軽三味線・打楽器演奏」、ケント・モリ氏「舞」奉納
 8月2日 (株)川島セルコン技術顧問 明石文雄氏来館
 鷹司尚通ご夫妻、近衛忠大ご夫妻来館
 8月4日 皇學館大学博物館実習生 15名実習
 8月 お白石持行事につき奉獻団多数来館
 9月10日 掌典長 手塚英臣氏始め 7名来館
 9月13日 陸上自衛隊一等陸佐 上条成和氏始め 7名来館
 警察庁警備局整備企画課長・警視監 村田隆氏始め 7名来館
 9月15日 台風18号到来につき点検・処理（～17日まで）
 9月19日 観月会開催（外宮奉納舞台）
 9月24日 展示替実施。館内外の保守点検・管理運営作業
 9月26日 麗澤瑞浪中学校・高等学校教員生徒 317名来館

- 台北芸術大学博物館研究所助教授 黄貞燕氏来館
- 9 月 29 日 臨時祭主 黒田清子様御視察
- 9 月 お白石持行事につき奉獻団多数来館
- 10 月 4 日 遷宮直会会場設営（休憩所）
皇族方用休憩所設営（せんぐう館地下控室）
- 10 月 5 日 遷宮祭につき臨時休館直会会場にて参列員夕食
秋篠宮殿下御休憩・習礼
- 10 月 6 日 遷宮祭につき臨時休館
奉幣参列員館内入館直会会場にて奉幣直会
14 時 30 分より開館
- 10 月 9 日 神宮境内地自然保護委員 木村政生氏来館
- 10 月 15 日 三重県立度会特別支援学校教員生徒 19 名来館
- 10 月 23 日 藤井寺市立道明寺小学校教員生徒 77 名来館
- 10 月 24 日 東北大学大学院教授 佐藤弘夫氏、皇學館大学教授 岡野友彦氏来館
- 10 月 25 日 来館者数 80 万人を記録
- 10 月 30 日 霞会館 前田利祐氏始 38 名来館
- 11 月 6 日 霞会館 内藤政武氏始 40 名来館
- 11 月 8 日 太宰府天満宮宮司 西高辻信良氏始 150 名来館
- 11 月 10 日 復興大臣 根本匠氏来館
- 11 月 15 日 真言宗醍醐派総本山醍醐寺六八世座主 仲田順和氏始 48 名来館
- 11 月 16 日 日本外国特派員協会 10 名来館
- 11 月 19 日 明治神宮宮司 中島精太郎氏夫妻来館
- 11 月 23 日 陸上自衛隊第十師団長 陸将 保松秀次郎氏始 8 名来館
- 11 月 28 日 愛媛県西予市長 三好幹二氏始 22 名来館
- 11 月 29 日 三重県警察本部長 高須一弘氏来館
(株)ジェイアール東海ツアーズ代表取締役社長 吉田修氏、(株)ジェイアール東海
エージェンシー代表取締役社長 阿久津光志氏始 20 名来館
三条観光協会会長 杉野信司氏来館消火設備点検
- 11 月 30 日 神習教教主 芳村正徳氏始 60 名来館
コクヨ(株)代表取締役社長 黒田章裕氏、鹿島建設代表取締役社長 渥美直紀氏
来館
- 12 月 6 日 三重県立稲葉特別支援学校教員生徒 48 名来館
- 12 月 9 日 神道政治連盟国会議員懇談会会長 中曽根弘文氏始 40 名来館

12月10日 念法真教教務総長 桶屋良祐氏始 1,200 名来館（・11日）
 12月11日 みなとの博物館ネットワーク・フォーラム研修 東京みなと館館長 伊藤隆夫氏始 10 名来館
 12月17日 来館者 100 万人を記録
 12月24日 展示替実施
 竣工 2 年点検実施
 12月28日 春日大社宮司 花山院弘匡氏夫妻来館
 12月31日 午後 11 時より夜間開館実施
 三重県茶業青年団呈茶奉仕（1 月 3 日まで）
 1月1日 午後 5 時半まで開館時間延長
 1月10日 富国生命保険相互会社代表取締役社長 米山好映氏来館
 1月17日 ㈱龍村美術織物代表取締役社長 龍村旻氏来館
 1月22日 全日本通訳案内士連盟研修会 28 名来館
 1月26日 衆議院議員 桜井宏氏来館
 1月31日 出雲市市議会議員 石原俊太郎氏来館
 2月6日 平成 25 年度神職養成機関普通課程生徒合同実習 40 名来館
 2月7日 宮内庁侍従 下均氏来館
 2月8日 ㈱秋江代表取締役社長 秋江弘一氏来館
 神社スカウトリーダー研修生 25 名来館
 2月10日 国際紙パルプ商事㈱代表取締役社長 田辺円氏来館
 福岡市長 高嶋宗一郎氏来館
 2月15日 静岡理工科大学教授 志村忠夫氏来館
 2月18日 出羽三山神社宮司 緒方久信氏来館
 2月19日 駐日インド大使 ディーパ・ゴパラン・ワドワ氏来館
 2月21日 シンガーソングライター さだまさし氏来館
 2月27日 重要無形文化財「蒟醬」保持者 山下義人氏来館
 3月4日 盛岡大学助教 塩谷昌弘氏来館
 3月7日 外国特派員プレスツアー 25 名来館
 3月9日 日本藝術院会員 書家 井茂圭洞氏来館
 3月13日 衆議院議員 城内実氏来館
 3月14日 東京大神宮宮司 松山文彦氏来館
 3月16日 伊勢神宮崇敬会主催・伝統文化体験教室開催
 3月17日 太宰府天満宮宮司 西高辻信良氏来館

日本藝術院会員 日本画家 山崎隆夫氏来館

重要無形文化財「蒔絵」保持者 室瀬和美氏来館

3 月 21 日 重要無形文化財「白磁」保持者 前田昭博氏来館

3 月 26 日 臨時休館（27 日午後 1 時まで）

3 月 27 日 天皇皇后両陛下御来館

午後 1 時より開館

神宮美術館開館20周年特別展
「日本の原風景」記念講演会
日本の四季と日本画

平成25年10月26日
日本画家 松村公嗣



日本画とは

昨日まで台風が来ていました。台風は日本の文化芸術に影響を与えていると言って過言ではありません。神宮美術館初代館長の河北倫明先生は、

日本芸術が非常に変化に富んでいるのは、日本の文化技術そのものが風土に左右されているからだ。

と、お話しされています。

皆さんにお渡しした資料は、一年を24の節気に分けた二十四節気表です。私は奈良県で生まれ育ちました。母はよく「今日は節気やね」と言っておりましたが、一年を24に分けてその都度お祭りを挙げる季節感というものは、日本の原点であると思います。日本は春夏秋冬が規則的に変化し、“それを愛でる”“それに感謝する”気持ちが文学・芸術に表現されています。これに対してヨーロッパでは季節を感じるものが少ないものです。

日本画の絵の具の原料は、砕いた石の粉を膠で練って作ります。石はそれほど固くないので砕いていくと青や緑の石の色が変わらずに残ります。

日本画のルーツについて説明するのは簡単ではありません。私が愛知県立芸術

大学に入学した当初は、浮世絵・水墨画・風景画について説明できませんでしたが、勉強する間に色々わかってきました。

「日本画」という語は明治時代に出来た言葉です。西洋から油絵が流入した結果、もともと日本にあった美術を「日本画」と総称したのです。「油絵」に対して「膠画」、または「西洋画」に対して「東洋画」としないで、あえて“日本”という言葉を使用しました。これは当時の人々が、国家を背負っているという国民意識の表れではなかったかと思います。

日本画という言葉は生まれてからわずか150年ですが、技術は1500年前に遡って見ることができます。西暦550年頃、仏教伝来とともに大陸から流入した文字・墨・紙・仏画などにより日本でも文化のルネッサンスが起きました。奈良県の金堂壁画、奈良県明日香町の高松塚古墳辺りが日本画の手法のルーツだと言われています。

日本画の特性

“胡粉”には“胡椒”と同様に西方（胡）から伝わったという意味があります。奈良の金堂壁画は文字を読めない人のために作られたイラスト画です。日本の図柄はすごく品が高く、当時は青・緑・赤・黄・白・黒の6色ほどで表現されています。

その他の例としては、《薬師寺吉祥天像》（奈良時代／国宝）。これは麻布に描かれているため綺麗です。そして《鳥獣戯画》（平安末～鎌倉初／国宝・高山寺蔵）、《源氏物語絵巻》（平安末／国宝・五島美術館蔵）、《伝源頼朝像》（鎌倉初または室町初／国宝・神護寺蔵）と時代が下り、雪舟（室町中期）を経て桃山時代に入ると華麗になるとともに、美術というものが作業化

していきます。

征夷大將軍はお抱えの絵師を雇い城郭等に絵画を描かせました。また城には膨大な壁面があるため、画家も壁画を描くことだけで生活できました。なかでも狩野派は勢力が強く、工房で描いていました。最終的には廃れますが、台頭したのには長谷川派があります。

江戸時代になるとまた煌びやかになっていきます。江戸中期の俵屋宗達（生没年不詳）や尾形光琳（1658—1716）を経て、化政文化（19世紀初期）で浮世絵が隆盛になります。当時は全て分業で制作していましたが、コンピューターがあれば全部一人でできます。東洲斎写楽（生没年不詳）や葛飾北斎（1760？—1849）の作品の印刷物がヨーロッパへの輸出品の包装紙に使われ、それを見たヨーロッパの人々が驚き、浮世絵を保存してきました。

日本美術院と日本画

日本美術院は岡倉天心（1863—1913）が創立しました。東京美術学校を退職する際、横山大観（1868—1958）・菱田 春草（1874—1911）らも一緒に退職しました。その後大学院のようなものを目指して明治31年に創設したのが日本美術院で、日本で初めての美術団体です。

日本美術院結成当時の会員である横山大観は非常に長生きしたため作品点数はとても多く、1万5千点ほど描いたと言われています。あとは居酒屋などで芸伎さんに与えた画も含めると5万点ほどになるのではないかなという説もあります。大観は戦時中に作品20点を売り、その売上金を軍に寄付しました。その価値は戦闘機にして10機ほどになります。そ

のため大観は戦争協力者というレッテルを貼られた時もありました。

これに対して小林古径（1883—1957）は遅筆で生涯点数が少ない作家です。《髪》（昭和6年制作 永青文庫蔵）は名品で、前田青邨（1885—1977）や安田靫彦（1884—1978）は、この作品を見て大きな衝撃を受けたと言われています。前田青邨は80歳から90歳くらいにかけて名作を多く描かれた方で、私もお会いしたことがあります。弟子が「八十代になってよくそんな発想ができますね」と言った時、「私は三十代で全部頭に浮かんではいたが、描く腕がなかった。」と答えたというエピソードがあります。

上村 松園（1875—1949）のように女性でここまで描ける人はいません。

ここまでが大体前代の画家の方になります。

片岡球子（1905—2008）は私の恩師です。100歳まで愛知県立芸術大学にハイヤーに乗って講義に来られた。気性の激しい方で、いつも叱られていました。

制作過程と作品

描いているときに油が画面につくのを防ぐために、私は指先がない手袋を使用しています。筆で描ききれないときは様々な道具を用い、右下には落款を押します。朱肉は藻草・ひまし油・朱を混ぜて作りますが、落款に付いている繊維はその藻草です。日本画で使う刷毛は、ほとんど動物の毛を使用します。先が尖っている毛は水毛といいます。人間は散髪して毛を切ってしまうため生まれたときにしかありませんが、動物は春と秋に毛が生え代わるので先が尖った毛を採取することができます。

描きながら胡粉という白色の絵の具でぼかしをいれます。日本画は完全に乾いてから次の工程に移るため、作業に時間がかかります。截金^{きりかね}は金箔を切って貼ることです。これは平安時代から行われている手法で、金箔はカッターナイフでは切れないので竹べらを使用します。私は時間に余裕があるときに金箔を作っておきます。

《舟歌》はベニスを描いた絵です。昨今、ベニスには何年かに一度の割合で行きます。全体に黒い絵の具を塗った上に白い絵の具で描き起こします。そうすると少し雰囲気が出てくるので、その後全体に紫の絵の具を塗ったり、砂子を蒔いたりします。水を表現するのに群青を塗り、不必要な部分の絵の具は流します。“描く”という仕事がプラスの仕事ならば、これはマイナスの仕事になります。このような作業を何回も繰り返しながら色を付けていき、ようやく完成します。

花を描くときは一旦解剖して研究します。絵を描くときには、解剖しないといたい何なのかわかりません。梅などは花びらよりもおしべが多く、意外と`性、が強い植物です。梅干し・梅酢どちらに加工しても毒になるような側面があります。解剖したものは紙に貼って記録用に保管しています。

《はだか祭》は愛知県稲沢市の国府宮（尾張大國霊神社）で毎年旧暦1月13日に行われる儺^な追神事^{おい}を描いた屏風です。大きな作品のため立てては描けないので、地べたに坐って描きました。骨の模型に自分で肉付けをして人の顔を作り、様々な角度から見て描きました。「神男^{しんおとこ}」に触ると厄が祓われるため必死で神男に触ろうとして、体がこすれて湯気がでてい

る様子を表現しました。

牡丹の絵は34歳ぐらいの時から描き始めました。それまでは、いつも人物を描いていましたが、あるとき牡丹を描くことを薦められて描きました。それまでは全然売れませんでした。この絵を境にやっと絵で生計を立てられるようになりました。画家としての節目の作品です。

愛知県立芸術大学の助手として宿舎に住んでいるとき、近くの児童が捕獲した蛙を引き取り水槽で飼って毎日スケッチをしていました。動物を描くときはポーズを指定した剥製を制作することもあります。

おわりに

日本の文化芸術は台風がひとつの原点であることは是非覚えておいて欲しいと思います。歴史を遡っていくと文化は大陸から輸入してきたものであり、ある意味日本のオリジナルのものはないのかもしれない。中国から発したものが、仏教とともに朝鮮半島、日本へと伝わり、今の我々の文化文明のベースになっているといえるでしょう。

質疑応答

【質問】

『文藝春秋』に掲載された《冬瓜》について、絵の大きさ、描かれた時のエピソードについて教えて下さい。

【応答】

絵のサイズはF10号です。冬瓜は冬の瓜と書きますが、真夏にできたものを冬まで待って食べます。母親は衰弱して食欲がなくなってからも、私の食べるもののことを心配していた、という話を妹から聞きました。野菜を見るとそのこと

を思い出します。

【質 問】

写生をするときに心がけていることはありますか。

【応 答】

学生時代には、「カメラは絶対に使うな」と言われました。その教えを忠実に守りスケッチしてきましたが、最近、時間内にスケッチが終わらないときにカメラを使うこともあります。ある写真を家内に見せたら、「なんて素敵な場所なの」、と言いました。しかし、そこは騒がしいうえに臭い場所です。写真で見ると色が綺麗だから騙されたのです。スケッチは単に見てくるだけではありません。現場で感じたことが大切であり、写生とは、五感全てを使って写すことです。現場で線一本でも描いてくることで絵に臨場感がでます。その上で写真などを参考に後付けするのです。風景を描くときには立位や座位など目線をかえて様々な角度から見ます。季節や天候によっても風景は変わるので、それらの組み合わせで無限に近い絵が描けます。それで私はあえて天気の良い日にスケッチに出かけます。“悪い日”も絵を描く立場からすれば“良い日”なのです。

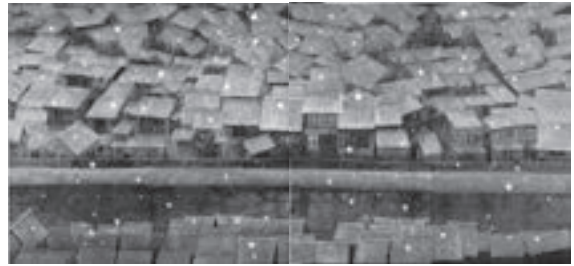
【質 問】

伊勢で有名な伊藤小坡についてご感想をお教え下さい。

【応 答】

あまり詳しくないです。伊藤小坡のように人物画を描く人は大変努力されていると思います。人物画はデッサンが少しでも狂っていると誤魔化せませんから。

ギャラリートーク



なごり雪（浅野川）

これは、平成17年に制作したものです。この風景は石川県金沢市を流れる浅野川河畔の3月下旬の早朝に降った雪、春が始まる季節のなごり雪と家のあかりが灯り始める場面を描きました。記憶だけで描き、5月に屋根を描くために再度現場を訪れました。

4枚で一つの作品ですので、四曲一隻といいます。小さい雪もあれば大きい雪もある。もし作品にあるような大きい雪に当たればたんこぶができます。雪は作品の仕上げの段階で距離感を出すために強弱をつけて描きました。

こうした瞬間を描く際に、写真を撮ることもあります。しかし、たとえば真夜中の蛍を描くのに、暗くてその場でスケッチは出来ないし、写真もうまく撮れない。それ故その場の状況を記憶します。人間の頭は意外と記憶できるものです。自分が感動したことを描くのが一番大事なことであり、これが私の原点です。

“原風景”という日本語はとても難しいと思います。「日本の原風景」は、日本独自の風景なのか、その人にとっての原点の風景なのか、もしくは失われていく、忘れられていく日本の風景のことなのかもしれません。“原風景”という響きは良いが、真剣に考えるととても難しいと思います。今回の展覧会では、様々な作品があることを改めて感じました。自分の原点とは何を元にする原点なのか、それ

ぞれ受け止め方が違うと思いました。

講演でお話したことに加えて、洋画（油絵）と日本画では大きな違いがもう一つあります。18世紀にヨーロッパで産業革命が起きた際、絵の具の“革命”もありました。油絵の赤い絵の具に含まれるカドミウムは有毒で、青い絵の具に使われるコバルトも猛毒で、変色させるには熱を加える必要があります。従って取り扱いは難しかったのですが、この頃、現在のようなチューブタイプのものが出来たことで、容易にどこでも絵を描くことができるようになりました。ただ「絵の具は簡単」というイメージがありますが、絵の具は半年くらい練らないといい色が出ません。日本画も大変ですが、油絵も面倒です。チューブタイプが出来たことで、フランスの洋画家ポール・セザンヌ（1839－1906）のように筆や絵の具、そしてキャンバスを持って、現場で描くようになりました。

これに対して、日本画家は膠と絵の具にかわを持参しても現場では描きません。日本画は記憶で描くものです。

文責 神宮司庁文化部

神宮美術館特別展

「静一歌会始御題によせて」 記念講演会 幼い日の夢の話

平成 26 年 3 月 8 日 (土)

洋画家 山 本 貞



演題からすると将来の夢の話かと思われませんが、実は夜に見る夢の話のことです。

略 歴

私の母は日本画を嗜^{たしな}んでいました。日本画は床下に寝かして描きますからアトリエは畳の部屋にありました。父は歴史学者で、真面目な人間でした。

高校時代に読売アンデパンダンという展覧会に絵画を出品^{のぐち}しました。野口彌太郎^{やたらう} (1899—1976) さんや鳥海青児^{ちょうかいせいじ} (1902—1972) さんが審査委員で、『週刊読売』の表紙にしてください、それが学校で評判になりました。昭和 35 年に安保騒動があって、たまたま早稲田大学の学生と安保活動のデモに加わったこともあり、30 歳のときに 3 年間、ニューヨークに留学しましたので、ニューヨーク近代美術館に収められている作品もあります。

昭和 51 年、42 歳のときに国連の切手や記念封筒をデザインしました。国連貿易開発会議 (UNCTAD) があつたときの記念の封筒をデザインし世界の架け橋になるように、両方の国を跨ぐよう

に封筒を作りました。そのサイン会で、様々な人がサインを求めて来てくれて、礼状もいただきました。

平成 2 年にモスクワ・クレムリンの赤の広場にて写真を撮りました。横浜はウクライナのオデッサと姉妹都市で、横浜・オデッサ美術交流展があり、私も美術展実行委員としてウクライナの方々と協力致しました。翌年、オデッサ市から画家が来日し、9 人が私の部屋に入った時は狭くて大変でした。彼らはおみやげに、スーパーで百円ライターを買って帰りました。困窮していた頃のソ連と日本の交流です。

平成 25 年 8 月には第 28 回東京都障害者総合美術展の審査員長を行いました。高円宮妃久子殿下が審査員をお務めになられ、一つ一つの作品を丁寧にご覧になられながら、身体障害者の方と歓談されていらっしゃいました。

作 品 概 要

以下の作品について画像を使用して制作時のエピソードを交えながら解説。

《ランドスケープ.S》《U・S・A-'72》《U・S・A-'73》《屋上の視覚》《アメリカ・記念日》《無名の風景 (I)》《影》《アリス論》《アリス考》《フェンス》《仲間川原生林》《鹿が去っていく》《風景考 (向日葵)》《グラフィティ》《だれもない時間》《通りすぎる町》《坂道をはしる少年》《ひとり》《風のぬける道》《地の光景》《時間の風景 (道)》《水辺の光景》《夏のひととき》《水の風景》《道の風景》《音のない風景》《少年のいる夏》《丘に立ちて》《静寂》《静の光景》《輝ける日》《秋のエチュード》《プレリュード》《春近き岬》《日本風景 (栃木)》《春を待つ沈黙の風景》《日本風景 (横浜)》

以上37点。

幼い日の夢とは

父親は真面目な学者でしたが、榎本健一の映画やターザンの映画が好きで、よく連れて行ってもらいました。ターザンの映画を観た日の夜は決まって自分がターザンになっている夢を見ました。ターザンの恰好をして、トラの皮のようなものを腰に巻き、木の洞に隠れて外を見ていました。外はライオン等が跋扈^{ばっこ}して出ることができません。5歳の頃の記憶で、気弱なくせに好奇心の強いターザンの夢でした。

25年ほど経ち、絵の勉強をするためにニューヨークに行き、そこで薄暗いアパートを借りました。なかなか部屋を貸してくれるところはなく、やっと借りられた部屋の窓は、日本の窓と異なり東か西にあり、光を取り込むためのものではなく、単なる風通しのようでした。

転居先の中には、中庭に一本の闊葉樹^{かつようじゅ}、柏の木のようなものが植わっているところもありました。窓から見える風景はそれだけで、一本だけ見ているのも面白いと思い、その窓辺で食事や勉強をしました。薄暗い空間から外を見ていると、幼い頃に見た夢、木の洞から外を覗くターザンの夢を思い出しました。私の物の見方は、幼少の折に刷り込まれたものだという事に三十代になって気がついたのです。私の心理的な描写みたいなものです。風景を意識することはあまりなく、いつも暗い部屋の窓を背負って歩いているような気持ちを抱いていました。

クロード・ロラン（1600?—1682）という一世を風靡した画家がいました。絵画の中に奥行きをつくるというテクニック

を用い、当時の貴族に大変人気がありました。当時の貴婦人たちの間では旅行が流行し、装飾の額縁がついた鏡を持ち歩き、綺麗な風景を見つけるとその鏡に映し、「ロランの絵がここにあるわよ」、少し映る風景を変えて、「こちらの方がいいわよ」などと言っていたそうです。景色を描くということは切り取ることでもあります。それがとても重要なことなのです。

ヨハネス・フェルメール（1632—1675）は、カメラの原型である針箱写真機「カメラ・オブスキュラ」を参考にして描いたと言う研究者もいます。

天体望遠鏡も無限の宇宙を、切り取って見ているのであり、情報も絞って“これを見よう”と意識すると、見えてくる。大勢の人が集まるパーティの喧噪の中で、自分の好きな女性の声だけが聞こえてくる、というフィアンセ効果もあります。人間の心理というのは切り取るということがとても大事なのです。クロード・ロランの鏡の話と同じです。

私は名所・旧跡に興味はありません。「パリへ行かずになぜニューヨークへ行ったのか」「山本さんの好きそうなレンガの壁もあるでしょう」と言われますが、私には、パリは沢山の画家に描かれて搾^{しぼ}り滓^{かす}のように思えます。繰り返し描くことによって新たに生まれることもあるでしょうが、いろいろな画家が描いて手垢が沢山ついているところよりも別天地に行きたいと思いました。

ニューヨークには取り立てて描くようなもの、美術史で有名な名所はありません。しかしそれ故に自由さがあります。外国人に対して寛容というか無関心なので、気楽に佇んでいられる。ニューヨークでは三回引越しましたが、どの部屋も

薄暗かったです。晴れ晴れとした自然はありません。公園はありますが家で仕事をしていました。窓の外を見ながら、腰掛けると落ちつく場所はありませんでしたが、空が見たくなり一泊二日でロサンゼルス行きのバスに乗りました。途中アリゾナ州では、農民や牛飼いが野原に寝転んでました。涯^{はて}しない青空を見上げていると、空の一番高いところは真っ暗で、見ていると怖くなりました。地球の引力が停電してしまったらそのまま真っ暗な宇宙の中に吸い込まれていくのではないか、という恐怖心を懷きました。

映画「猿の惑星」はアリゾナで撮影したらしいのですが、“地球の原風景”を表現するのに使った空だけに、ただの空ではないと思いました。その時見た空が、留学から帰って来て、青空シリーズを描くきっかけになりました。またこの頃から、私は森とか木を描いています。その後、少年をたくさん描くようにもなりました。少年が何気なく町の隅で遊んでいる風景を描いた作品もあります。

青空シリーズが終わって数年後、横浜の現在の住居に移り、そこで初めて光と影を感じました。木に影が絡むとその影ができます。私の家は高台ですので、日が傾くと木の影が伸びていき、それを面白いと思い描きました。これが光と影との出会いで、光と影と緑を描いて、今に至っています。

質疑応答

【質問】

風景をスケッチする際に気をつけることを教えて下さい。

【応答】

心構えの問題で、十字を切って描くわ

けではないので、影などを描いていると、大体のところで作ることはあります。

【質問】

夜間に描かれているとのことですが、自然光で見るのと違いはありますか。

【応答】

自然光で描くことは滅多にありません。日中、運送業者による搬出作業の時、太陽の光が当たると、“このような色であったのか”と思います。かつては北光線や曇りの日に描けと言ったものです。また磨りガラスを通すと光が散りますので、私は好みません。鋭い直射の光を描きたいと思います。

【質問】

神宮で先生のお話を聴けて嬉しく思います。窓とは絵に思いが繋がっていくものなのかと思いましたが、如何でしょうか。

【応答】

日本建築は柱でできていますが、西洋建築は壁でできています。庭が見える日本の家屋から、欧米の家屋に移ると、壁があるため暗い感じがしました。壁が厚く発達しているところでは壁画に、窓が発達したところはステンドグラスになったと言われた方もいます。

建築家の原広司氏が「有穴体」という理論を唱えています。“沢山の窓があつて光が差すことで、動物は生きているのだ”と言うものです。頭蓋骨にも眼窩が二つあり、そこから光を取り入れている。窓は、家、部屋の穴だと思います。

文学でもドアから飛び出すよりも、窓から飛び出すほうが絵になります。ドアでは全身が行き来しますが、窓には何か

特別な象徴のような意味があるのではないかと思います。

【質 問】

お父様から受けた影響は何かありますか。

【応 答】

父は私が6歳のときに亡くなりました。日本建築史が専門で、藤原京の発掘などをしていたようです。私が5歳のとき、塗り絵をした際に、アウトラインを塗ってからチューリップなどの木を描いていたら、父が「面白い」と言ってくれました。学校の教師のように“はみ出しては駄目だ”と言われるかと思えば、意外なことに褒めてくれたのです。“はみ出すことは大事なことだ”と後になって気が付きました。つまり幼少時に塗り絵をしていて、はみ出したのを父に褒められたことが絵画を描くうえでの原風景となりました。

皆さんもお子さんを褒めてください。父の遺言というわけではありませんが、出来は悪くても面白いところを見つけて褒めるようにすれば感動して印象に残るものです。

【質 問】

お母様について教えてください。

【応 答】

昭和16年8月に父が亡くなりました。その年の12月に戦争が始まり、母は日本画を諦めざるを得なくなりました。

【質 問】

なぜ洋画を習ったのですか。

【応 答】

家に母が使っていたアトリエがありましたので、残っていればそのまま使おう

と思ったかもしれませんが、戦争で全て焼失しました。^{かぶらき きよかた} 鏑木清方さん（1878—1972）が東京の大森に居られたので、母はその指導を受け美人画を描いていました。しかし私は子供でしたので、美人画を見て、このような絵を描きたいとは思いませんでした。

ギャラリートーク



言葉にならないから風景を絵画にするのであり、それを言葉で説明するのはとても難しいことです。

この絵の場所は、栃木県の奥日光の山奥です。奥日光は車の通行が規制されており、公害が出ない電気バスに乗り換えます。そのバスを降りて一時間ほど歩いた山の中です。人の居ないところには人のにおいが残っておらず、そうした新鮮さがあるのでこの場所を選びました。平成18年の第60回二紀展に出品して、その後、平成22年には横須賀美術館にも出品して皆様にご覧いただいている作品です。

深さもかなりある池とも水溜まりともつかぬ場所で、大きな木の枝だけが水上に出て、水の中では倒木の枝が繋がっています。木々が水面に映っているのが面白いと思い画材に選びました。あまりにも静かなので少年を入れてみました。ただ人物が強調されすぎないように隅に描きました。

原生林は木が一定の大きさに育つと倒れる。それが朽木になって、カブトムシが棲む、その倒れた所にその木の種が芽生えてくる。これを「倒木更新」というので、倒れた木が母となり、次の世代を育てていく自然の循環になっています。

緑の絵を描いていて難しいのは、森は緑一色で他に色はありませんから土のところのバランスをとるという工夫が必要なところですよ。

逆光で、影の木肌はほとんど真っ暗に見えます。画面をよぎって一番手前の木がありますが、こうした手法は最近流行ってます。

取材旅行には一人で行くことが多いです。気ままに一人で歩きながら旅をします。ドイツの詩人ヨハン・ヴォルフガンク・フォン・ゲーテ（1749—1832）の言葉に、「旅は自分が持っていたものだけを持ち帰る」というものがあります。“旅には新しい発見はなく、持っているものを再確認して持ち帰ってくる”ということです。何も考えずに旅をすると、旅の風景は何も見えてこない、頭の中の何げない記憶として終わってしまいます。絵描きには“絵を描く”というテーマがありますが、一般の方は、歴史を下調べして、目的を考え、あまり写真を撮らずに帰るのがいいと思います。日本人はよく写真を撮りますが、後でどこの写真なのか覚えていないことがよくあります。

絵の構図についてお話するよりも、この絵を前にして質問があればお伺いします。

質疑応答

【質問】

静謐な絵で感動しています。緑をどれ

だけ使えばこのような深みが出るのですか。画面の中にキラキラしているのは何ですか。

【応答】

下塗りの際、絵の具が引っかかるように描いているので、最後の仕上げのニスで凹凸が生じ光って見えます。この上に光沢のないニスを塗ることもあります。この絵は光沢を活かしています。フランス素朴派の画家アンリ・ルソー（1844—1910）は緑色の数を研究したそうです。色はパレットで混ぜながら作るの、色名は答えられません。油絵の具は昔から色を混ぜない方が綺麗だと言われてい、自分の好きな色を幾種類か購入し、それを使うのがよいと思います。

【質問】

スケッチの際に写真は使いますか。また制作日数はどのくらいかかりましたか。

【応答】

現場では写真を撮ります。影のあるものはスケッチしていてもわからない部分が多いので、必ず写真に納めます。油絵の具はなかなか乾かないのであちこちを描きます。この絵は8月半ばから始めて10月開催の二紀展に間に合わせました。

【質問】

何を感じて、どうしてここでこの絵を描こうと思ったのですか。

【応答】

難しい質問ですね。感性というのは大本一つです。それに響いてくるものは人体でも風景でも同じです。この場合で言えば、題名のように、“静かで音がしない”、“静かだから”、“立ってじっと見ていたい”と思ったことが制作の動機です。感じ方

は人それぞれで、“これを見たらこのような気持ちになる”などと決まったことはありません。性に合うものと合わないものがあります。先ほど陳べましたように、旅はその人の持っている物を持って帰るものです。

【質 問】

画中の少年は先生を投影したものですか。

【応 答】

絵が完成に近づいてくると、誰かを呼びたくなる。自分はディレクターで、「よしここにいろ！自転車をこげ！」という気分です。

私は少年の頃、何度も疎開を経験しており、少年らしく大勢で遊んだ体験がありません。いわゆる少年時代がないのです。ロストジェネレーションといいますか、欠落した部分、自分の少年時代を絵で補完をしているのではないかと思っています。

【質 問】

便利なペンディングオイル（註1）やリンシードオイル（註2）・テレピン（註3）といったものもあります。どの油を使われますか。

【応 答】

基本的にはペンディングオイルを使い、薄めたり濃くする場合にはリンシードオイルやシッカチーフ（溶剤・乾燥促進剤）を入れます。匂いが好きだといって高価なラベンダーオイル（註4）を使う人もいます。私はポピーオイル（註5）かリンシードオイルです。

【質 問】

古いものの修復をされたことはありますか。

【応 答】

修復を専門としている芸術大学の研究所はありますが、私は制作する立場なので修理することまでは行っていません。

【質 問】

この絵のなかで、神秘さをもった少年が真っ先に目に入りました。

【応 答】

そのように感じていただけたらそれで結構です。人間は人間を真っ先に見るものです。

〔註1〕ペンディングオイル 乾性油、樹脂、揮発性油、乾燥剤などが使いやすい状態で既に配合された溶き油。

〔註2〕リンシードオイル 乾性油。油絵の具の表面に皮膜をつける。絵の具の透明性を増し、光沢を付加する。白や明るい色に用いると黄変することがある。

〔註3〕テレピン 薄め液。絵の具の濃度や艶を調製する。リンシードのような光沢はない。

〔註4〕ラベンダーオイル テレピンと同じ用途で用いられる。ラベンダーの香りがして、他の物と比べて高価。

〔註5〕ポピーオイル 乾性油。乾燥する時間がリンシードオイルより遅いが、黄変することがないので、明るい部分や白の絵の具に用いる。

文責 神宮司庁文化部

匠のギャラリートーク

平成 25 年 8 月 16 日、9 月 13 日

萱工 田中正光

奈良県天理市山田町から来ております田中です。20 年前にも御正殿をはじめ多くのお宮の屋根葺きを 6 年ご奉仕させていただきました。20 年後はもう来られないと思いましたがまだ元気に現役で仕事をしており、今回もこうしてご奉仕させていただきます。これまで経験してきた色々なことについて申し上げたいと思います。

※

昭和 24 年、戦争が終わった後でしたので食糧難のどん底にありました。私は家の長男でありましたから、長男は親父の後を継がねばと母親から言い聞かされていまして、ああそうなのかなと思っていました。実のところ食糧難で食べものがほとんどありません。なぜかといいますと、農業をしていますが、みな米を「定給^{ていきゅう}」といい、一軒ずつ何反ずつなんぼというように割り当てがあり、それをみな徴収されました。ですから古米や悪い米は残して自分で食べて、そして芋などを栽培して家族を養っておりました。

昭和 24 年の 4 月から萱工として仕事をさせていただきました。私は始まりから四代目になります。当時仕事に行ってみれば、屋根は砕けて雨漏りしているのがほとんどでした。他の萱工はみな兵隊に出てしまっていて居ないので他所には頼れない。泣くように毎日のように私の所へ「屋根をしてください」と扉を叩いて頼みに来られました。毎日それを聞いていると「頑固な、かわいそうになあ」と思い、できる限り早く学んで親父の跡を

継ぎたいと思い一生懸命習いました。しかしながら今と違って見て学ぶだけであって、どれだけ親であっても手を取って教えてくれません。そして次々と兵隊に出て行った人が帰ってこられました。父の二番弟子・三番弟子も帰ってきました。その方も一緒に入ってくださいましたけれども、今と違って軍隊出身だからでしょうか、「サァー！」というようにもう怒られて怒られてもうどうしようかなと思うほど叱られました。しかしなんとしても一人前になりたいということで一生懸命に仕事の時間、叱られる中ずっとはしごをよせて、どのように角を葺くのかなとちょっとめくって見たりして研究しました。そして 3 年くらい経ったところでぼちぼち隅の方を括れるようになりました。親父は「うーん、ちょっとまあまあかのお」と笑っていましたが、中々上手くならないのです。なぜかという「萱」が皆違うのです。自然に刈ってそのままさらした、もう何ともならない萱もあります。どうやって葺いたらいいか、こうしなかったら屋根はいかんことになってしまう。この様なことを考えているともう本当に夜も寝られません。しかしながら雨が降って屋根に水が湧いても恥ずかしい話です。何としてもこれを仕上げなければいかんと、一生懸命に雨が滴る所をじっと見ていたり、また継いでみたりしてやってみました。そのおかげで、アメリカのサンフランシスコでダニエルソンさんという方から仕事を頼まれました。また中国・香港政府よりダイヤモンドヒルでも日本庭園の仕事をさせてもらいました。

※

一番下の所は「蛇腹^{じゃばら}」といいます。こ

れが一番隅に来ています。30センチの萱が40本あります。軒の妻ののぼりは、一本ずつ「袴^{はかま}」を付けています。袴を取るためには茎から剥きます。蛇腹を作るには、錐で穴を開けて、竹籤^{たけひこ}を2本通します。通してから裏表とも洗剤で洗って削いでいます。ものすごく手間を掛けています。もしあせったら全部妻側は空^すいてきます。萱は大体曲がっていますから、蛇腹に出来るものは1〜2本しかとれません。竹籤でとめるために10センチ間隔に錐で穴を開けます。竹籤を通して繋ぎます。繋ぐ時に透き間ができたらずれます。だから束ねて潰しているのです。縦の筋を砕いてハサミで切ってしばっていくのです。それを同じように繋いで揃えていきます。

蛇腹の一番下の部分は、上から見ると荒^{すさ}みなのです。なぜこのようなことをするかというと厚みをとるためです。軸の方から厚みは出てきません。ですからこれを使って萱を並べて、数ミリ皮をばらけて皮だけを出すのです。そして縄を掛けて締めて叩いて揃えるのです。そして雨が降ると雨がそこにつくのです。雨は飛び、屋根の中には入りません。ですから屋根は皆このような感じで上げていきます。妻も皆詰んでいます。雨が入らないように詰むのです。しかし厚みがありますから。それがイメージ通りにはならないのです。それは長年の経験と勘で行かなければならないのです。

萱はすべて質が違います。強いものもあれば柔らかいものもあり、それをうまく利用しながら妻も軒も仕事をしています。角が上がってこない時は短い萱で調整しながら枕を作り、中に放り込んで勾配を付けて葺いていきます。それは「見た感じ」でやっているのもあって、書物

などでこの様にするとどこにも書いてありません。端の様になっているものは妻の部分の蛇腹です。この勾配は神宮独特のやり方です。やはり手間が掛かります。この様な萱を揃えることは大変です。神宮には100町歩（100ヘクタール）の萱場があります。中には太いものも細いものもありますので、きちんと選り分けて自分たちで確保して作っています。

屋根はアール（＝曲線）になっており、下の厚みと上の厚みは違います。これは神宮独特の屋根の形です。普通の神社では上の厚みも下の厚みも同じに作ります。しかし神宮ではアールをつけて格好良くしています。ですからアールをつけるため、同じ萱では上手く整いません。短いやら長いやらと色々と突き詰めて考えながら作ります。お参りをすると妻の部分は実際に見ることが出来ますので、薄いところも分かると思います。外宮はやや厚く、内宮はやや薄く仕上げています。外宮は内宮と違って1メートル40センチの厚みがあるのです。萱には穴がありますから水が入ります。中には白い発泡のようなものが入っています。これに断熱材の役割があります。屋根にはこの束を2万本用意しています。断熱ですから夏は熱を通さず冬は暖かいのです。昔の人はちゃんと考えて使っていたので、本当に偉いと思います。

萱は油分がありますから水をはじくのです。水は滴って下に流れますからできるだけ勾配を持たせて踏み込んであります。隅の方は一本一本萱の束を置かなければこの様なかたちにできません。一本ずつきちんと並ぶように手を使って自分の感覚でしています。私もはじめは父親がほいほいと渡してくれたのですが、父

親の仕事は板みたいにきちんと出来ていましたが、私はパサーとしてうまくいきませんでした。樋表と樋裏で萱の傾きが違うのです。萱の曲がりも違います。これも手の感触で決めるのですが、こうした感触は何十年としていないと身につきません。また萱には一本一本の特徴があります。それを見極めるのにもかなりの時間が掛かります。

はじめに蛇腹を4寸の幅で作し、二重にして8寸の幅にします。そしてバラ萱を一面に置いて、次に軒萱を重ねています。長い束と短い束が分けてありますので、一枚二枚三枚と感覚で重ねて仕上げます。ですからほとんど感覚、見た目ですしています。屋根の形がこうと決めれば、隅を作り真ん中の厚みも決まります。妻の部分などにも振り分けてバランスを取ります。奈良で仕事をしている時などは、雪が降ると屋根が凍ってバラバラになります。それを叩きで叩いて固めなければなりません。首や手がしびれて感覚が無くなります。防寒具も用意します。これは猪靴ししぐつです。若い時から10足ほど用意したのですが、これが最後の1足です。大事な靴なので残しました。大和郡山市の民俗資料館で出したことがあるのですが。子供たちは見たことないと驚いていました。この靴は足を暖めるだけでなく、萱のぬくもりも伝わってくるのです。でも手は冷たいからと手袋をはめると暖かいのですが、萱の感覚がわかりません。「素手でせえ！」とよくいわれました。でも仕事をするとなら10分くらいで赤くなります。朝の10時くらいまでは仕事になりません。しかし母さんが手袋に綿を入れて作ってくれたので暖を取りました。

屋根には色々な形や素材があります。

庇がかかっている家とない家、瓦葺きであたりトタン屋根であたりしますが、それぞれやり方が違います。神宮の屋根は一番昔のやり方です。しかし立派な家でも蛇腹などはお金が続かないといわれてできません。ですからほとんど藁葺きになっています。藁も組み方が難しい素材ですが、本式はやはり萱葺きです。萱を束ねる縄も昔は山にある蔓草を使って縛っていました。静岡の登呂遺跡からも出ていますから、萱は昔から使われていたことがわかっています。しかし今ならともかく、昔の石を使った道具などで削ぐだけではちょっとやそつとで萱を張れないと思います。

この部分はいらか藁といい、私たちは箱船はこぶねと呼んでいます。これは鞭懸むちかけといひます。藁と鞭懸の間がとても厚く、きれいなアールに仕上げるには時間がかかる一番やりにくいところだす。この場所にハサミを入れる時には上からの人もあれば下からの人もあります。私は上から刈って仕上げています。この部分の萱は細いものを使っています。萱にも雄萱おがやと雌萱めがやがあります。雌萱は細くて角は優雅であり、長くて少しゆがんでいます。この部分は雌萱を使っています。このザラザラ部分の萱を三分ほど出します。短い萱をやって、伸び萱をやって、踏み萱をやって厚みをつけます。この厚みをつけるやり方が普通のとは違うのです。なぜかというとな、これだけの厚みがありますからどれだけす梳いてもさらうことができるのです。もちやり工法といひて、このやり方をしていひるのは神宮だけだす。普通の屋根はもっと薄いですから、これだけの厚みをつけ保たせるためには、中には青竹で作った梁はりを入れて、飾らないようにして踏みあ

げています。

※

原寸大模型の仕事はある日「田中さん、原寸正殿の1/4の模型をしてほしい」といわれました。軒の長さは大体4メートル、2間です。上は6メートル50センチあります。作業の時にせんぐう館の壁板と正殿模型の壁板との間には萱を載せていなかったの、やって欲しいといわれました。今はこうして広いのですが、工事中は萱をだんだんと載せていくと、厚みは1メートル40センチありますので、自分のからだが入っていかないのです。壁に傷をつけてはいけなし、これは何とかしなければいけない。ものすごくやりにくかったのです。妻部分の作業では、丸い鋼管を使い90センチピッチで足場が組まれていましたから、脚立を傾けても掛からないので葺くのも大変でした。足場の三本目が邪魔だから切ってくれとお願いしますが切ってくれません。これでは作業ができませんよと言って、頼みに頼んでやっと半分だけ切ってもらいました。けれども、ハサミを使うといっても、通常の神宮の屋根でしたら上りやすいので色々できるのです。実際の造営作業では階段がありますからやりやすいのですが、この模型では鋼管の足場が屋根との間にありますから、登板を敷いて大バサミを使うこともできません。また、せんぐう館の天井には布が貼られているのですが、始めは1メートルくらいの間隔がありましたが、屋根を葺いていく間にものすごく狭くなってきたので作業をするのにハサミを入れることすら出来ません。そうかといって壁をどかすこともできない。完成には屋根を葺いたもののハサミを入れて揃えなければなりません。ハサミを

入れたくても体を動かさず腕も動かさせない。さあ困ったな、何とか工夫しなければならぬということですが、後ろに潜って裏から仰向けになって刈ればできると思いやりました。しかし刈った萱が全部自分の顔にかかってきたのです。外側は外側でパッパと切りましたがボロボロ落ちてきました。けれども造営の様に台に上ることができませんから、やっとの思いで何とか切り揃えることができました。

この模型では実際と同じようにバラ萱を置いて軒萱を置いて踏み萱も置いています。それも同じ角度で葺いています。隅には蛇腹もあります。これを交互にしなければなりません。外側から刈るとビシャビシャになってしまいます。そのため裏から刈っています。裏から刈ると萱は逃げていくので、見た目も良くきれいに出来ます。

※

萱工は皆、遷宮に間に合うようにと頑張ってきました。また私はこれまで仕事で全国を回ってきました。おかげさまで今日まで苦勞してきた甲斐があったなと思っています。しかしながら段々と萱葺屋根が少なくなってきていますので、萱も無くなりつつあります。私は4代目です。孫が仕事を手伝ってくれていますが、継いでもらえれば5代目です。孫にしっかり教えて、跡を継いで欲しいなと願っています。時間もありますのでこのへんで終わりたいと思います。ありがとうございました。

※ 8月16日と9月13日に開催したギャラリートークの内容をまとめて編集しました

企画展「皆押しあひぬ御遷宮」参加者印象記（全 154 名）

都道府県	性別	印象記
1 月 12 日 10:00「絵図で巡る外宮参拝」①		
大阪府	男性	昔も今に至るまで古きそして新しい出来事を未来へ向かって受け継いでいてください。
千葉県	女性	入った時から静かなおごそかな感じを受けました。伊勢神宮で毎日日々行事などが行われている事も知り、日々の平和な暮らしに感謝しました。
千葉県	男性	交通の利便性は良くなりましたが参拝の感動、ありがたみが今も昔も変わらないと思います。
千葉県	男性	新年の晴天の下、森の中の神聖な神宮で身の引きしめる思いで御参拝でき、あらためて来て良かったと思いました。
岐阜県	男性	伊勢の神 外宮のガイドに教えられ 我が心の神も お出ましかな
岐阜県	女性	歴史ある内宮・外宮を今日参拝させて頂き外宮の昔と今を説明してもらいありがとうございました。ここに参拝しますと心ひきしめる思いをしました。また参拝したいです。
1 月 12 日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」②		
愛知県	女性	遷宮がきっかけで伊勢参りをしたいと思い伊勢神宮の説明もテレビで見えていたが、現地に来て想像以上に良かった。特に外宮での説明を聞いて外宮の魅力がより増した。
愛知県	男性	江戸時代に一時タイムスリップし外宮参拝させて頂く中で、昔も変わらぬ神に向かう時の清らかな人の気持ちを感じました。
東京都	男性	お伊勢さん千代に八千代につづくこと祈りの心苔のむすまで
大阪府	女性	これだけ長い時間続いている遷宮という行事は、日本人たちの皆の気持ちが集まってくるからかな、と思いました。日本ですごい国やな、と改めて思いました。
岡山県	女性	静かな気持ちで時間を過ごすことができ、また明日から頑張ろうと思いました。
岐阜県	男性	お伊勢参りの歴史を知ることができ、事あるごとに参拝したいと思います。
1 月 13 日 10:00「外国人の見た神宮・遷宮」①		
三重県	女性	毎日参拝させていただく度に身も心も洗われる感じがします。日本人として人としてどうあるべきかを考えさせられます。参拝させていただきありがとうございます。
三重県	女性	神宮も新しき 20 年を出発した年に参拝し私も家族と共に新しく出発してゆきたいと思いました。
東京都	女性	地球の素晴らしさが伊勢には凝縮されていると思います。自然と共に生きる、自然の恵み恩恵に感謝する日本人だけでなく人としての本来のあり方や生き方を気付かせていただける場所空間であると思います。高千穂で生まれ育ったことに感謝。伊勢へ参度もお参りさせていただけたことに感謝。
三重県	女性	日本人として伊勢の神宮が日本の精神性の中心である。生まれ変わる常若の精神を様々な所で表され人間に示されている事への敬意と感謝を更に理解しました。
三重県	女性	仏教について学ぶ機会がありますが神道について初めて説明を受けた気がします。
栃木県	女性	衣食住の大切さを感じました。
三重県	女性	日常心にもやもやしているのが鳥居をくぐり歩いてゆけばそのもやもやがなくなただただ気持ちよい心持ちになります。ありがとうございますと感謝する言葉だけです。

－	－	外宮を回り心新たになりました良い年になりますように。
三重県	男性	この思いいつまでも続きますように。
新潟県	女性	いくとせの 日月を重ね ご遷宮 仏も神も今は参らん（遷宮を重ねるたびにどんどんいろんな人が詣でるようになっていく）
1月13日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」③		
北海道	男性	江戸時代と現代との外宮のさまざまな違いを参道を進みながら説明していただいて、まさに江戸時代に参拝しているかのような気分になりました。
北海道	女性	参道を進み正宮の建物を拝見させていただいた時、心がやわらかく温かさが伝わり心地良い感覚を自覚しました。神様はいらっしゃるのですね。今生きていられる事に感謝し精一杯生きて行こうと思いました。
1月18日 10:00「絵図で巡る外宮参拝」④		
東京都	女性	初めて参拝に来ました。久々に仕事の事を忘れ、説明して頂いた事に集中して聞き入っていました。知らない事ばかりで説明を受けなければ恐らく石（三石）に手をかざしていたと思います・・・。
三重県	女性	久しぶりの参拝でした。清らかな心を取りもどした気持ちです。記念の年に来られて良かったです。パワースポット（三石に手をかざす人々）にびっくりです。
岐阜県	男性	これまでも何度か参拝させていただいていますが、今回初めて説明を聞きながら参拝させていただき、心があらわれ、うれしい気持ちになりました。
1月18日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑤		
大阪府	男性	久々に心清らかになった気分です。仕事に追い回されている毎日ですが、一年一度参拝したいと思いました。
大阪府	男性	江戸時代も現代も日本人の心の故郷である。そんな場所に来れることをありがたく思う。
大阪府	男性	新旧の宮を同時に見られ時の流れを実感しました。次回の遷宮には家族で来られるようにと思います。
大阪府	男性	古くからの日本人の心を受けついでいきたいと思います。
大阪府	男性	初めて参拝させていただきました。説明を聞かなければただの観光で終わっていたと思います。あらためて重みを感じています。
長崎県	女性	1500年前から脈々と日々伝承されている様々な歴史伝統を考える1日となりました。心が清らかになり気持ちよい気分です。
奈良県	女性	新春の伊勢もうで、心清らか。今回は正式な参拝方法など教えていただきとてもありがたかったです。
愛知県	女性	新年に身も心も引きしめる外宮参り毎年来ていても心新たになる神聖な場所です。
愛知県	男性	古くて新しい神宮を古の人の思いを聞きながら参拝できとても貴重な体験となった。今年はいいい年になるように。
1月19日 10:00「外国人の見た神宮・遷宮」②		
東京都	男性	初めての参拝想像以上の感銘を受けました。日本人としていつまでも守りつづける事が大事だと思います。格調高い説明をありがとうございました。
東京都	女性	神宮の古代からの成り立ちを知り、私達の祖先の神に対する祈り、願いを感じました。
東京都	女性	空気がピンと張りつめている感じがしました。沢山の人々を神様があたたく見守ってくださっているような気もしました。雪とともに見る伊勢神宮はとてもキレイでした。

岐阜県	男性	心清められました。また心新たに生活出来そうです。ありがとうございます。
岐阜県	女性	雪の降る寒い日でした。「しん」としたたたずまいが美しいと感じました。参拝させて頂きありがとうございました。
1月19日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑥		
神奈川県	男性	心が洗われる気がしました。
神奈川県	女性	日本人として命を受け育ってきたことの偶然性、必然性が自分の中に存在することを感じました。歴史を知ることは自分の国を知ることまた同様に世界の歴史をすることもこれからの世界に必要なこと。
愛知県	女性	すがすがしい空間で心地良いご説明を受けながら参拝でき幸せでした。
1月25日 10:00「絵図で巡る外宮参拝」⑦		
埼玉県	男性	昔から沢山のそして様々な人々の願いをもつての参拝過去への感謝と未来への希望を感じました。
埼玉県	男性	おごそかな雰囲気の中で神様の存在を感じられた伝統を守る大変さと大切さ感じた。
埼玉県	男性	伊勢神宮というという所は大変大きな場所であると思いました。又、昔とかなり違っていることにおどろきました。
埼玉県	男性	今回初めての参拝でしたがお伊勢様に呼ばれて来たように感じました。参拝では自分の心の扉が開いたように感じました。自分に正直になれました。
埼玉県	男性	江戸時代では15日くらいかけて自分の先祖も参拝したかもしれないと思うとすごいと思いました。
兵庫県	女性	いつの世も神々に会いに伊勢の路を次の遷宮いつの日
1月25日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑧		
北海道	女性	このような場所がはるかな昔からずっと続けてあるのはすばらしいと思います。普段は意識しないことですが、ずっと続いてきた歴史の延長に今があってそれがこれからも続いて行くんだと考えさせられます。千三百年も前から日々のお祭りや遷宮が続いてきたのはすごいことだと思います。この先もずっと続いて行くように人の気持ちも社会もあってほしいと思います。
千葉県	女性	正殿の前に立った時からだが震えて涙が出てきました。身体を中心にむかって衝撃を感じました。 ここにいてここにいられたことに感謝いたします。
1月26日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑨		
三重県	男性	自然の中に建つ社が生き物と同じ様に見えた
三重県	女性	年に一度は必ず参拝をしたいと思います。新しく良い年になるような前向きな気持ちになりました。
千葉県	女性	身体と心が浄化されるような気がしました。ありがとうございました。案内とても良かったです。
静岡県	女性	神様というものは神々しい存在ではあるもの人間と同じくお食事をされ周りの人々や自然の恵みを受けていらっしゃるという事を知りました。ありがとうございました。
北海道	女性	森にかこまれているためか非常に清々しい印象でした。正殿ではなくいたる所に神様が存在している気持ちがしました。
大阪府	男性	世界でも希有の精神世界の拠り処であることが実感できました。本当の世界遺産と思う。

大阪府	女性	参拝の仕方から教わり有意義な時間を過ごせました。昔と同じ事、違う事、進化している事等、興味が出てきました。
2月1日 10:00「絵図で巡る外宮参拝」⑩		
神奈川県	男性	日本人の心の源流に触れることが出来る場所でした。
神奈川県	女性	伊勢神宮には数回参っておりますが、参拝の度に日本人としての誇りを感じます。
神奈川県	女性	旧正殿と新正殿を見ることができて良かったです。色々と説明していただいて勉強になりました。良き体験となりました。有難うございました。
神奈川県	男性	神宮の歴史神聖さを感じることができました。神宮参拝は初めてではありませんが説明を聞かないとわからないことが多かったです。ありがとうございました。
東京都	女性	心あらたなる気持ちになりました。
埼玉県	女性	今日は神馬さんも見られたしいろいろと説明していただいて寒かったけどたのしい時をすごせました。
埼玉県	女性	数年前参拝させていただいた時より御遷宮にあたりせんぐう館でよりいっそういろいろな事がわかり日本の歴史の重さを感じ大事にしていきたいと思いました。
2月1日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑪		
—	女性	本日は初めての正式参拝に伺いました。今回で4回目ですが遷宮後初めてでとても神様を身近に感じることができました。
愛知県	女性	本日は説明していただきありがとうございました。とても長い間続いている日本の歴史を感じました。
愛知県	男性	古代から伝わる日本人の心を後世にしっかりと残していかなければならないと感じた。
愛知県	男性	年月の積み重ねすばらしさを感じた。感謝という思いをいつまでも心に・・・
愛知県	女性	昔と変わらぬ伊勢。時代と共に変わった伊勢。そして自然と共存した伊勢神宮は益々魅力的です。参拝が出来て良かったです。
大分県	女性	目には見えないもの。それを感じられる。世の中は目に見えるものより見えないもののほうが大切である。
愛知県	女性	二千年も前よりどれだけの方がこの地を訪れているのだろうと改めて感じました。
大阪府	女性	何かをさずかるというよりただひたすら感謝の気持ちがわいてきました。
三重県	女性	おまいりさせていただいた事に感謝です。とてもすがすがしく喜ばしい気持ちにさせていただきました。
2月2日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑫		
三重県	女性	雨上がりの日差しのある社の中に入ったとき森のにおい冷えた空気に触れることができ、このタイミングに来られたことを嬉しく思いました。遷宮によるよみがえりの思想を古殿地の風景との違いに見ることができました。
三重県	男性	ガイドしていただいたので歴史やかくれたエピソードなど知ることができ、たいへん勉強になりました。せんぐう館のことは知人にも自信をもってすすめたいと思います。ありがとうございました。
愛知県	女性	歴史や時代背景などをふまえ説明いただきとても興味深くまた日本人としておごそかな気持ちを新たにさせていただきました。とても貴重なお時間をありがとうございました。
愛知県	男性	神宮の歴史を感じる事が出来た。特に一時期を除いてこれまで続けてきた遷宮の歴史や朝夕毎日行われる食事の事など知れば知るほど歴史の長さを感じずにはいられない。

愛知県	女性	大変清々しい気持ちになりました。特別な神宮であるとともにもっと身近に感じてもよいところなのだと思います。またお参りに来たいと思います。
2月9日 10:00「外国人の見た神宮・遷宮」③		
東京都	女性	一生に一度と思い来れて良かったです。来る前にはとても決まり事が多いと思っていましたが、お話を聴いてとても自由なのだと感じました。伊勢参りをした人の1人となれて日本人としてとても嬉しく思います。
東京都	男性	お願いをして良いとは思いませんでした。
東京都	男性	わかり易い説明ありがとうございました。冷たく引き締まった空気に心洗われた気がしました。二十年近く前に来た時と同じです。
東京都	男性	松尾芭蕉との関連外国人の見方、はじめて知りました。信者様だけでなく自由であることを機に又参拝したいと思います。
2月22日 10:00「絵図で巡る外宮参拝」⑬		
広島県	女性	これからの神様に対する心がけの気持ちが又、あらたになりました。ありがとうございます。
広島県	女性	何も知らず訪ねてきた私にとって今日はありがたく拝聴しました。20年後元気に来れることができるように願っています。
広島県	女性	常若の思想の中、その不変なるものを考えさせられた。
広島県	女性	江戸時代のお蔭参りに寄せる老若男女のパワーに触れる思いがしました。平成の伊勢参りが観光に偏らず原点に戻ることを願っています。
2月22日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑭		
兵庫県	男性	どうしても参拝したいと思っていました願いが叶ったと尊いの意味を理解することができたことに感謝します。
兵庫県	女性	時代が変わろうと人々の営みや祈りの気持ちは変わらないものだと思います。新たな気持ちで参拝させていただきました。ありがとうございます。
広島県	男性	初めて参拝させて頂き、何も分からなかったことが説明を受けながら参拝できよかったです。事前に聞いた情報と違いがあり勉強になりました。
広島県	女性	何も知らず訪ねてきた私にとって今日はありがたく拝聴しました。20年後元気に来れることができるように願っています。
2月23日 10:00「外国人の見た神宮・遷宮」④		
愛知県	女性	芭蕉や西行が伊勢で頭を垂れた思いに触れることができました。
千葉県	女性	建物も池も美しく清らかな気持ちになりました。数ある大木に歴史を感じました。
福岡県	男性	丁寧にご案内いただき、外宮の深い歴史昔からの移り変わり良く解りありがたく感じました。
愛知県	男性	木が太く古い社が趣き深かった。
愛知県	女性	きれいで気持ちよかった。子供がうるさかったがそれもよし。
愛知県	男性	白い石をがらがんふんでしまった。ベランダに出てとても気持ちよかった。
2月23日 13:00「絵図で巡る外宮参拝」⑮		
愛知県	男性	丁寧な解説を頂き通り過ぎるだけのお参りが時の大きな流れの中にある土地、お宮だという事を感じることができた気がします。今の幸せに感謝したいと思います。
愛知県	女性	自然と調和していて大変豊かな気持ちになりました。昔からお伊勢参りが特別なことであった意味が良く分かるような気がしました。

3月1日 10:30「絵図で巡る外宮参拝」⑯		
愛知県	男性	神様は天御中主神からはじまり伊弉諾伊弉美が次々と神を生んだ。天皇の祖先の天照大御神は伊弉諾の左目から生まれた。日本の神は素晴らしい。
栃木県	男性	何気ない日々の生活を大切にしたいと思いました。
栃木県	女性	私自身毎日を丁寧に生きようと思いました。
東京都	男性	神伏の尊さを知る 弥生朔
3月1日 13:30「絵図で巡る外宮参拝」⑰		
東京都	女性	二十年毎の再生の素晴らしさを感じました。
東京都	女性	古くから繋がるものと新しく生まれるものの融和
3月2日 10:30「外国人の見た神宮・遷宮」⑤		
和歌山県	女性	続く生命 続く祈り 今を大切に 未来を見つめて
神奈川県	女性	ありがとうございました。すがすがしい空気の中に神の気配を感じ 気持ちを新たにいたしました。
3月2日 13:30「絵図で巡る外宮参拝」⑱		
奈良県	女性	境内に入るとすごい人だがりとした雰囲気を感じることができ、気持ち新たになりました。ああ私はこれが好きだと思いました。より本来の日本人に近づけた気がします。ここは誇りに思います。ありがとうございました。
東京都	男性	実際の建物等を目前にご説明いただき大変おどろき且つ納得しました。ありがとうございます。特に尊敬の念から信仰が生ずる説明は感動しました。
東京都	女性	20年に一度義務で遷宮をしているのではなく皆の想いがあるのが伝わって感動が深かったです。ありがとうございました。
3月8日 10:30「絵図で巡る外宮参拝」⑲		
埼玉県	男性	古い歴史がある伊勢神宮ではあるが遷宮の度に新しい歴史が重ねられていく感じがした。
埼玉県	女性	何も説明を聞かずに参拝しても建物の偉大さに感動しましたが説明を拝聴しもう一度参拝すると一つ一つ無駄のない自然な造りで20年の移り変わりにとても感動しました。
埼玉県	女性	神様に対しては大変身近に感じております。 私が嫁にきて先祖が神主だったときき、大変驚きました。(主人は神主ではないのですが)家に神様のあげるところが12ヶ所もあり、毎朝ごはんお茶をあげています。一年行事もお正月より暮れまですべてやっております。今日参拝できて良かったです。ありがとうございました。
愛知県	女性	古来より古い伝統を守りつつ新しい技術も取り入れ20年に一度私は60歳を過ぎましたが、初めて興味を持って参拝をしました。また一つ一つの建物にそれぞれの意味があるのを知り感銘を受けました。
大阪府	女性	子供の頃親に連れられ又は学校の修学旅行にて訪れ成人してからは子供を連れ何度もおまいりしていますがいつも清々しい気持ちになったように思います。本日は今まで何も知らずにお参りしていましたが、色々理解も出来またあらたな気持ちでお参りできました。
大阪府	男性	神聖な中で面々と変わらず受けつがれたものと時代に合った変化と説明をいただき大変印象に残りました。

—	女性	去年も参拝していますが新旧2社ならんでいるのを見て、20年のうちでこんなに変わってしまうのをはじめて感じました。古くなり生まれ変わるという自然さ美しさがとても良かったです。
3月8日 13:30「絵図で巡る外宮参拝」⑳		
福岡県	男性	神宮に参拝して太古の人々と現代の我々に通じる気持ちや心を感じた。
3月9日 10:30「外国人の見た神宮・遷宮」㉑		
静岡県	女性	伊勢神宮は空気が違い思わず姿勢を正して歩いています。一人でも多くの人々が参拝してほしいと思ってしまいました。幸福感に包まれて後にします。自分ではない別の自分を発見する感じがします。
大阪府	女性	悠久の歴史を感じる場所が多いですが過去・現在・未来を同時に感じる場所は神宮だけです。本日正宮の前に立っている時、昔あるいはずっと未来にも同じ場所に立っていた自分を夢想しました。神々様のお食事をお世話する神様はまさに神様の中の最高の神様と思います。
—	男性	正しい知識はその場所に行きその土地に関わる人から話を聞くのが一番正しい事ではないでしょうか
3月9日 13:30「絵図で巡る外宮参拝」㉒		
東京都	女性	日本人が大昔から大切にしてきたことが大変よくわかりました。遷宮での新しいお宮と古いお宮両方を拝見させていただきありがたく思いました。ご案内ありがとうございました。
東京都	女性	心が清められるような気分になりました。今回の参拝が初めてでしたが定期的に参拝しにきたいとおもいました。
東京都	男性	神様がたくさんいらしゃった。伊勢神宮が一つでなく多くの神社の名前だとはじめて知った。
東京都	女性	何年も変わらないものがあるんだと感動しました。日本の誇りです。
3月15日 10:30「絵図で巡る外宮参拝」㉓		
千葉県	男性	日本は無宗教に近いと考えていたものが、そうではなく神宮を始めとして様々な神仏を敬う文化である事を認識した。
千葉県	女性	連綿と続いてきた祈りの時間の流れを感じられた空間でした。
神奈川県	男性	日本人の原点を感じました。日本の中にこういう神聖的なところがあることを嬉しく感じました。
栃木県	女性	より深く外宮（神宮）の存在を知ることができました。長い歴史の中で続けていくことの大切さも多く知ることができました。
3月15日 13:30「絵図で巡る外宮参拝」㉔		
東京都	男性	今も昔も伊勢参りへの想いは変わらないんだろうと思いました。
東京都	男性	常若の聖地で今も変わらぬ不変の価値を感じました。
埼玉県	男性	神宮の空気が清々しく心洗われるようであった。食べ物に感謝していきたい。
奈良県	女性	春の暖かい日差しの中おごそかな気持ちでお参りさせていただきました。今日元気にお参りさせていただいた事にただただ感謝の気持ちでいっぱいです。
奈良県	女性	とても清らかなきもちでお参りできて幸せです。今も昔も変わらず神頼みは一緒ですね。
東京都	男性	初めての参拝でしたが少しばかりの空気を感じました。

愛知県	男性	心やすらかに参拝できました。また来たいと思います。
愛知県	女性	地球人の様だった自分に気がついた思いです。五十才になりようやく日本人に近づきました。ありがとうございました。
大阪府	男性	本日は思いがけなく外宮ガイドの機会があり普段なにげなく見ておりました。建屋の重み（心のよりどころ）を感じさせていただきました。感謝です。
奈良県	男性	参拝の度に何故か自然体で手をあわせるようになっていきます。生きていることに感謝。
東京都	女性	新旧入れ替わることで永遠に続くことができるというのを実感いたしました。
神奈川県	男性	玉砂利を踏みしめる毎に日本人である喜びを感じました。
奈良県	男性	改めまして日本は良い国だな平和だなと実感しています。
大阪府	女性	本日せんぐう館から日本の祈りの原点を学ばせていただきとても清々しい気持ちで日本に生まれたことに感謝しています。ありがとうございました。
3月16日 10:30「外国人の見た神宮・遷宮」⑦		
千葉県	女性	古代の神の声を聴き洗練された儀式にまとめ言霊音霊と共に休むことなくいともまれる毎日がここにあります。永遠に続くことを心からお祈りします。
千葉県	女性	伊勢へ初めてお参りをしたことで日本人として必要な事日本が考える本来の宗教日本の歴史を知ることができました。参拝は日本人にとって本当に必要な事だと感じます。
東京都	男性	伊勢神宮へのお参りは日本人の歴史と文化の伝承であり我が国の誇りである。
東京都	女性	伊勢神宮の参拝は宇宙へ届く祈りです。
3月22日 10:30「絵図で巡る外宮参拝」②④		
東京都	男性	神域と思う気持ちはあれど周りは観光客で大混雑私もその一人となり参拝
東京都	女性	参拝者が多く、但し観光が多いと。江戸時代から続くお伊勢参りも同じような様子でずっと続いていてほしい習わしだと思います。その中の一人になって嬉しく思いました。
三重県	男性	伝統を守り抜く神宮に接し日本人としてのアイデンティティーを確認させてもらえた気がします。
三重県	男性	新宮と旧宮がならぶ姿を見て改めて歴史の重みを感じることができました。
北海道	女性	お陰参りでたくさんの方が参拝しているが木々が多いせいか音が静かで気の良い香りがした。おごそかな気持ちになれた。ガイドブックに惑わされない知識も知りえて有意義な時間でした。

平成 25 年度神宮研修所学事報告

一、教 育 方 針

神宮の神徳を仰ぎ神職としての必要な学科及び雅楽を教授し、神宮の祭祀及び事務を習得せしめ、以て神祇奉仕の精神を研修せしめる。

人格形成に重点をおき、実習その他日常生活においては規律、信義、礼儀等精神訓育を旨とする。

二、在 学 者 数

①在学者数

学年	入学者数	進級者数	備考
一年	4 名		受験者 5 名・合格者 5 名
二年		4 名	

②出身県別在学生一覧表

都道府県名	二年	一年	合計
岩 手 県		1 名	1 名
福 島 県	1 名	1 名	2 名
群 馬 県		1 名	1 名
岡 山 県	1 名	1 名	2 名
鳥 取 県	1 名		1 名
島 根 県	1 名		1 名
合 計	4 名	4 名	8 名

③平成 2 5 年度神宮研修所在学者名簿

[二年生]

氏 名	生年月日	年齢	出身県
赤 嶋 慶 哉	平成5年12月30日	19歳	鳥取県
竹 田 匠 汰	平成5年10月27日	19歳	島根県
谷 内 大 樹	平成2年3月22日	23歳	福島県
林 敬 太	平成6年3月13日	19歳	岡山県

[一年生]

氏 名	生年月日	年齢	出身県
石 田 達 也	昭和63年11月7日	24歳	群馬県
鈴 木 啓 太	平成4年7月20日	20歳	福島県

田 村 匠	平成3年7月18日	21歳	岡山県
古 川 導 正	平成3年1月10日	22歳	岩手県

三、開設学科目・教員等について

①開設学科目並びに時間数

科 目	二年	一年	備考
神 道 概 論	60		
神 社 神 道 概 説		60	
神 道 史 概 説	60		
祭 祀 概 論	60		
(含 神 宮 祭 祀 概 論)			
神 道 神 学	60		
神 道 文 献		60	
古 事 記		60	
日 本 書 紀	60		
延 喜 式 祝 詞	60		
神社祭式同行事作法Ⅰ		60	時間外演習あり
(含 神 社 故 実)			
神社祭式同行事作法Ⅱ	60		時間外演習あり
(含 神 社 有 職)			
祝 詞 講 読		60	
祝 詞 作 文	60		
神 道 教 化 概 説	60		
(含 神 宮 教 化 概 説)			
関 係 法 規		60	
宗 教 概 説		60	
国 史		60	
国 文		60	
神 宮 概 説	60	60	
(含神宮制度史・式年遷宮概説)			
雅 楽	120	120	
古 典 講 読	60	60	
(含 神 宮 古 典 講 読)			

書	道	60	60	
情報処	理	60	60	
武	道	60	60	本年度は居合道
合	計	960	960	

②教員並びに同資格

職 名	氏 名	資 格	担当学科	摘 要
所 長	小 堀 邦 夫	皇大・大学院		神宮禰宜・文教部長
主 幹	長 内 弘 昭	國大・神道学科	祭祀概論	神宮権禰宜
専任講師			祝詞講読	
主 任	三 輪 和 平	皇大・大学院	神道教化概説	神宮主事
専任講師			(含 神宮教化概説)	
			情報処理	
講 師	宮 川 清 彦	皇大・国史学科	神社神道概説	神宮禰宜
講 師	堀 川 孝 雄	皇大・大学院	宗教概説	神宮権禰宜
講 師	石 垣 仁 久	國大・大学院	神道神学	神宮権禰宜
			(含 神宮古典講読)	
講 師	木 本 雅 文	皇大・専攻科	神道概論	神宮権禰宜
講 師	廣 津 悟	皇大・専攻科	国 文	神宮宮掌
講 師	立 野 智 洋	皇大・神道学科	武 道 (居合道)	神宮宮掌
講 師	尾 崎 友 季	皇大・専攻科	『古事記』	神宮宮掌
講 師	野 村 卓 秀	神宮研修所	祝詞作文	神宮宮掌
講 師	時 田 雄 平	國大・神道学科	神社祭式	神宮宮掌
			(含 神社有職)	
講 師	大 野 由 之	皇大・大学院	『日本書紀』	神宮宮掌
講 師	鎧 谷 嘉 樹	皇大・神道学科	神宮概説	神宮宮掌
			(含 神宮制度史・式年遷宮概説)	
講 師	芝 本 行 亮	皇大・大学院	古典講読	神宮宮掌
			(含 神宮古典講読)	
講 師	北 島 良 一	神宮研修所	書道	神宮宮掌
講 師	工 藤 正 弘	國大・神道学科	神社祭式	神宮宮掌
			(含 神社故実)	
講 師	中 野 泰 志	皇大・大学院	関係法規	神宮主事

講	師	音	羽	悟	皇大・大学院	延喜式祝詞	神宮主事
講	師	黒	川	典雄	皇大・大学院	神道文献	神宮主事
講	師	中	村	秀行	雅楽講習所	雅楽	神宮楽師
講	師	小	林	晃	雅楽講習所	雅楽	神宮楽師
講	師	岡	山	源	雅楽講習所	雅楽	神宮楽師
講	師	堀	川	秀徳	皇大・大学院	国史	出仕
講	師	窪	寺	恭秀	皇大・大学院	神道史概説	主事補

③平成二十五年度 授業時間割表

月日土	金	木	水	火	日 曜
社頭実習（土曜日・日曜日二部宿衛勤務）	① ② 古 典 講 読 (含神宮古典講読)	① ② 神 宮 概 説 (含神宮制度史 式年遷宮概説)	② 神 道 神 学 (含神宮古典講読)	② 神 社 祭 式 (含神社有職)	1 限 目
	芝 本	鎧 谷	石 垣 宮 川	時 田 廣 津	8 : 40 10 : 10
	② 神道教化概説 (含神宮教化概説)	① 古 事 記	② 祭 祀 概 論	① 神 社 祭 式 (含神社故実)	2 限 目
	三 尾 崎 輪	音 羽 中 野 泰	長 内 堀 川 秀	大 野 工 藤	10 : 20 11 : 50
	① ② 書 道	① ② 雅 楽	② 神 道 概 論	① 祝 詞 講 読	3 限 目
	北 島	岡 小 林 中 村 晃 秀	大 本 長 内	窪 寺 黒 川	13 : 10 14 : 40
	① ② 情 報 処 理	① ② 雅 楽	① ② 居 合 道	② 祝 詞 作 文	4 限 目
	三 輪	岡 小 林 中 村 晃 秀	立 野	野 村 堀 川 孝	14 : 50 16 : 20

※①②不定期に神宮関係講義と教養講座を実施する

四、年間神務実習実施計画

	四 月	七月 (中旬)	七月 (下旬) 八月 (下旬)	九月 十月	一 月
実施日	土曜 日	土曜 日	指定 神社 実習 (約二十 日間)	土曜 日	土曜 日
実習先	両 宮 神 楽 殿	両 宮 神 楽 殿		両 宮 神 楽 殿	両 宮 神 楽 殿
備 考	祭典奉仕 風日祈祭 神御衣祭 六月次祭	祭典奉仕		祭典奉仕 神嘗衣祭 神嘗衣祭 新嘗次祭 十二月次祭	祭典奉仕 歳旦祭 元始祭 建国記念祭 祈年祭

※ 毎週土・日曜日に二部宿衛（夜間奉務）

※ 本年度は神宮式年遷宮斎行の為十月中に曜日に関係なく二十五日程度の社頭実習を実施

※ 十二月下旬～一月上旬に年末年始社頭実習を行う

五、年間主要行事

- 4月2日(火) 「神田下種祭」奉拝
- 4月10日(水) 研修所竣工式
- 4月15日(月) 新入生入寮・対面式・定例打合会
- 4月16日(火) 入学式準備・予行練習
- 4月17日(水) 第45期生入学式・学事懇談会
学生及保護者説明会・三者面談
両宮参拝(外楽／御神楽)・各所挨拶
オリエンテーション・入学奉告祭
- 4月18日(木) 市内別宮並二見興玉神社参拝・実習準備
- 4月19日(金) 「神宮大麻用材伐始祭」奉拝
- 4月20日(土) 社頭実習(斎館・～21日)
- 4月23日(火) 「植樹祭」参加
- 4月25日(木) 前期授業開始
- 4月30日(火) 「春の神楽祭」拝観
- 5月8日(水) 早朝禊・定例打合会・月次祭
- 5月11日(土) 「神田御田植初」奉拝
- 5月14日(火) 「風日祈祭・神御衣祭」奉仕
- 5月20日(月) 研修旅行(一年生～21日)
- 5月20日(月) 修学旅行(二年生～22日)
- 5月23日(木) 「延寿大々御神楽」助勢(～24日)
- 5月中旬 健康診断受診
- 6月5日(水) 早朝禊・定例打合会・月次祭
- 6月6日(木) 「参与・評議員会」助勢(～7日)
- 6月11日(火) 神宮文庫助勢(～12日)
- 6月15日(土) 「六月月次祭」奉仕(～17日)
- 6月24日(月) 伊雑宮参拝(御田植式奉拝)
- 6月27日(木) 御塩浜整備作業助勢
- 6月29日(土) 瀧原宮参拝・本居宣長記念館見学
- 6月30日(日) 「大祓」参列並奉拝
- 7月2日(火) 早朝禊・定例打合会・月次祭
- 7月5日(金) 前期授業終了

7月8日(月) 前期試験(～11日)
 7月12日(金) 夏期鍛錬会(奥伊勢・～13日)
 7月17日(水) 神宮関係特別講義(～18日)
 7月19日(金) 前期終業式・大掃除・部屋替・夏期実習準備
 7月22日(月) 夏期実習(八坂神社・住吉大社・宇佐神宮・富士山本宮浅間大社・鶴岡八幡宮)
 夏期休暇(～8月28日)
 8月29日(木) 後期始業式・大掃除
 8月30日(金) お白石持行事参加
 9月3日(火) 早朝禊・定例打合会・月次祭
 「神御衣奉織」奉拝・斎宮歴史博物館見学
 9月4日(水) 後期授業開始
 9月7日(土) 「常典御饌」習礼(二年生)
 9月13日(金) 後期授業休止
 9月14日(土) 遷宮態勢に付社頭実習・各所助勢(～10月31日)
 9月19日(木) 「神宮観月会」助勢
 9月24日(火) 「御塩焼固」奉拝・神宮御園見学
 10月1日(火) 「常典御饌」(乙番)奉仕(二年生～2月末)
 内宮「川原大祓」奉仕
 10月2日(水) 内宮「遷御」奉仕
 10月3日(木) 内宮「奉幣」奉仕
 10月4日(金) 外宮「川原大祓」奉仕
 10月5日(土) 外宮「遷御」奉仕
 10月6日(日) 外宮「奉幣」奉仕
 10月8日(火) 早朝禊・定例打合会・月次祭
 10月14日(月) 「神御衣祭」奉仕
 10月15日(火) 「神嘗祭」奉仕(～17日)
 11月1日(金) 早朝禊・定例打合会・月次祭
 後期授業再開
 11月23日(土) 「新嘗祭」奉仕
 12月4日(水) 早朝禊・定例打合会・月次祭
 高倉山幼稚園餅搗き行事助勢
 12月5日(木) 五十鈴川幼稚園餅搗き行事助勢
 12月6日(金) 神宮大麻暦頒布活動参加(県神青会)

12月13日(金) 授業終了
 12月15日(日) 「十二月月次祭」奉仕(～17日)
 12月18日(水) 終業式
 冬期休暇(～26日)
 12月27日(金) 始業式・年末大掃除・迎春準備
 12月28日(土) 年末年始社頭実習(～1月13日)
 12月31日(火) 「大祓」参列
 1月1日(水) 「歳旦祭」奉仕
 1月3日(金) 「元始祭」奉仕
 1月13日(月) 成人の日参拝(該当者)
 1月14日(火) 授業再開
 1月16日(木) 早朝禊・定例打合会・月次祭
 1月24日(金) 後期授業終了
 1月27日(月) 後期試験(～30日)
 2月4日(火) 神職養成機関普通課程生徒合同実習Ⅰ(一年生～7日)
 2月11日(火) 「建国記念祭」奉仕
 2月12日(水) 尾張大國霊神社実習(～16日)
 2月17日(月) 「祈年祭」奉仕
 2月21日(金) 茶道教室・定例打合会・月次祭
 2月25日(火) 早朝禊・定例打合会
 卒業並進級奉告祭・送別会・予餞会
 2月28日(金) 冬期鍛錬会(夜行軍～3月1日)
 3月6日(木) 大掃除
 3月7日(金) 両宮参拝(内楽／御神楽)
 卒業式準備
 3月8日(土) 卒業式予行練習
 3月10日(月) 第44期生卒業式(壮行会) 式後後片付け
 3月11日(火) 献酒奉告祭助勢
 3月12日(水) 平成二十六年度入学試験(～13日)
 3月18日(火) 平成二十五年度終業式
 春期休暇(～27日)
 3月28日(金) 平成二十六年度始業式・大掃除・部屋替

平成25年度 神宮道場使用状況

○神社本庁総合研究所直轄研修

研 修 名	期 間	日 数	受講者数	開閉講式参列	備 考
第105回中堅神職研修（丙）	4/10～14	5日	47名	開：小堀禰宜 閉：渡邊禰宜	12日講義：小堀禰宜 「神宮式年御遷宮について」
第106回中堅神職研修（丁）	4/15～19	5日	52名	開：小堀禰宜 閉：河合禰宜	
第90回指導神職研修	4/23～27	5日	32名	開：小堀禰宜 閉：少 宮 司	26日講義：小堀禰宜 「神宮式年御遷宮について」 27日大宮司招宴
第107回中堅神職研修（丙）	5/27～31	5日	36名	開：小堀禰宜 閉：渡邊禰宜	30日講義：小堀禰宜 「神宮式年御遷宮について」
第75回正階基礎研修（丙）	6/9～15	7日	27名	開：宮嶋禰宜 閉：河合禰宜	12日講義：長内権禰宜 「神宮祭祀」
第87回明階基礎研修（丙）	6/19～28	10日	39名	開：小堀禰宜 閉：小堀禰宜	27日講義：吉川権禰宜 「神宮史」
第108回中堅神職研修（丙）	7/9～13	5日	44名	開：小堀禰宜 閉：小堀禰宜	
第91回指導神職研修	7/17～21	5日	32名	開：小堀禰宜 閉：渡邊禰宜	
第76回正階基礎研修（甲）	1/21～27	7日	30名	開：小堀禰宜 閉：渡邊禰宜	
第109回中堅神職研修（丙）	2/20～24	5日	38名	開：小堀禰宜 閉：小堀禰宜	23日講義：小堀禰宜 「神宮式年御遷宮について」
計		59日	377名		

○神社本庁総合研修所主催各種研修

研 修 名	期 間	日 数	受講者数	開閉講式参列	備 考
計		0日	0名		

○神社本庁総合研修所主催生徒合同実習

研 修 名	期 間	日 数	受講者数	開閉講式参列	備 考
神職養成機関普通課程生徒合同実習Ⅰ	2/4～7	4日	32名	開：小堀禰宜 閉：小堀禰宜	5日講義：三輪主事 「神宮の創祀」 5日講義：長内権禰宜 「神宮の祭祀」 5日講義：小堀禰宜 「神宮式年遷宮」 5日講義：工藤宮掌 「神宮大麻と奉賽」 5日禊指導 道彦：北島宮掌 助彦：井土出仕
計		4日	32名		

○國學院大學・皇學館大学神宮実習

平成25年度				平成24年	平成23年
学 校 名	期 間	日 数	受講者数	受講者数	受講者数
國學院大學第1期	8/9～15	7日	31名	33名	48名
國學院大學第2期	8/16～22	7日	31名	32名	48名
明階検定合格者			5名	4名	3名
國學院大學第3期			0名	34名	39名
國學院大學第4期			0名	0名	52名
皇學館大学第1次	8/23～29	7日	29名	35名	43名
京都國學院専修課程履修者			4名	9名	6名
皇學館大学第2次			0名	41名	53名
合 計		21日	100名	188名	292名

平成25年度				平成24年	平成23年
第63回神宮雅楽講習会	期 間	日 数	受講者数	受講者数	受講者数
	6/2～5	4日	164名	156名	157名

○平成25年度神宮道場使用状況総括

研修会及び講習会名	日 数	受講者数
神社本庁総合研究所直轄研修	59日	377名
神社本庁総合研究所主催各種研修	0日	0名
神社本庁総合研究所主催生徒合同実習	4日	32名
神宮実習(國學院大・皇學館大)	21日	100名
総 計	84日	509名

○平成25年度神社庁主催神宮研修(神宮道場は使用しない)

主催神社庁名	研修会及び講習会名	期 間	日 数	受講者数	備 考
京都府	階位検定講習会	8/22	1日	45名	22日案内：三輪主事
兵庫県	直階検定講習会	8/26	1日	31名	26日案内：長内権禰宜
合 計	2件		2日	76名	

平成24年度 各県研修及び講習会開催依頼件数 5件
 受講者計 139名
 日数 7日

平成23年度 各県研修及び講習会開催依頼件数 5件
 受講者計 153名
 日数 8日

平成25年度 神宮文庫・教学課事業報告

《神 宮 文 庫》

1. 図書受入

年 度	冊 数	内 訳
25年度	292	購入45・寄贈190・引継51・編入6

2. 蔵書冊数

年 度	冊 数	内 訳
25年度	310,770	和装本206,092 洋装本104,678

3. 主な献納図書

年	月	資 料 名	点 数	献 納 者	備 考
26	2	御物絵師草紙模本	1	恵良 宏	登録済
26	2	山田奉行所関係文書	709	永井謙吾	未登録
26	2	古今和歌集 以下	290	藤原早子	未登録
26	3	自慶長至現代神都年表 以下	36	小堀邦夫	登録済

4. 図書整理（未整理本）

資 料 名	点 数	整 理 作 業 状 況	献 納 者	献 納 年 月
三條家文書	8,856	仮目録との照合60%済、データ入力70%済	三條實春	昭和25年6月
御巫家旧蔵資料	1,491	仮目録との照合70%済、データ入力済	御巫清和	平成19年3月

5. 図書修補

和書：虫損等の劣化の著しい和書・古文書・卷子本等を調査し、3ヶ年一期ですきはめ・裏打ち修補を実施

年 度	部 門	実施冊数
25年度	第5門 歴史	28

*3年次

*この他に脆弱した糸の綴じ直しを実施

6. 図書閲覧

年 度	閲覧日数	閲 覧 者	閲覧冊数	開庫日数	来庫者数
25年度	116	287	2,614	241	603

*9・10月の2ヶ月間は臨時休庫

7. 資料貸出

年	月	展 示 会 名	貸出点数	会 場	期 間
25	3	「国宝 大神社展」	1	東京国立博物館	4/9～5/6
25	8	第62回神宮式年遷宮展「御白石」	2	神宮徴古館	7/9～9/8
25	8	第62回神宮式年遷宮展Ⅰ「おおみやうつし」	4	神宮徴古館	10/7～8/24
25	11	「国宝 大神社展」	1	九州国立博物館	1/15～3/9
26	3	企画展「出口延佳－神道は日本の道なり－」	9	せんぐう館	3/26～6/23

8. 図書頒布

年 度	頒布冊数	初 穂 料
25年度	270	181,100

＊初穂料は献金として内宮神楽殿に送金

9. 主な図書頒布

書 名	頒 布 数
神宮教養叢書 第7巻 神宮祭祀概説	37
神宮教養叢書 第2巻 伊勢信仰と民俗	16
神宮教養叢書別冊 第3巻 式年遷宮と御神宝	120

《教 学 課》

1. 教学課研究員

名 称	職 階	氏 名	所属部署
主任研究員	禰 宜	小堀邦夫	文化部兼文教部
研究員	権禰宜	吉川竜実	広報室広報課
	宮 掌	廣津 悟	文化部
	宮 掌	吉田吉里	調度部調度課
	宮 掌	大野由之	総務部総務課
	宮 掌	小川倫太郎	祭儀部儀式課
	主 事	音羽 悟	広報室広報課
	出 仕	山口祐樹	総務部総務課
	出 仕	神田直久	奉養部奏奠課
	出 仕	堀川秀徳	総合企画室
	出 仕	山口武徳	奉養部授与課
	主事補	窪寺恭秀	文教部神宮文庫

2. 増補大神宮叢書の編纂

年	月	書 名	編 集 担 当	出 版 社	備 考
25	5	二宮叢典 前篇	教学課	吉川弘文館	新組新版5冊目
26	1	二宮叢典 中篇	教学課	吉川弘文館	新組新版6冊目

＊増補大神宮叢書 全25巻〔平成17年～平成27年3月完結予定〕

＊新組新版の編纂状況は【別紙1】参照

3. 神宮式年遷宮要諦 別冊の編纂

年	月	書 名	備 考
25	8	神宮式年遷宮要諦 別冊3	御戸祭～御神楽を収録・刊行

4. 瑞垣総索引の編纂

＊既刊の『瑞垣総索引 創刊号～175号』（弘報課編、平成9年3月）の増補版を作成

＊平成27年12月刊行を目指して鋭意編集作業に取り組んでいる

5. 主な図書頒布

書 名	頒 布 数
「ご遷宮」って何ですか？	242
神宮への祈り	0

【別紙 1】

『増補大神宮叢書』新組新版編集進捗状況

平成26年3月現在

書 名	編 集 担 当	編 集 状 況
神宮神事考證 補遺上	皇學館大・教学課	平成22年8月出版
神宮神事考證 補遺下	皇學館大・教学課	平成23年10月出版
神宮教院大成	皇學館大・教学課	平成24年7月出版
神宮神事図録	教学課	平成24年12月出版
二宮叢典 前篇	教学課	平成25年5月出版
二宮叢典 中篇	教学課	平成26年1月出版
二宮叢典 後篇	教学課	平成26年6月刊行予定 校正作業を鋭意執り進めている。
神宮近世奉賽拾要 前篇	國學院大・神社本庁・ 教学課	平成26年11月刊行予定 本文データ6割入力済み。解題6割提出済み
神宮近世奉賽拾要 後篇	國學院大・神社本庁・ 教学課	平成27年3月刊行予定 本文データ4割入力済み。解題6割提出済み

平成 2 5 年度神宮幼稚園卒園児数並び平成 2 6 度園児数について

○ 平成 2 5 年度 神宮幼稚園卒園児数	4 3 名	【 4 3 名】
五十鈴川幼稚園	2 6 名	【 2 4 名】
高倉山幼稚園	1 7 名	【 1 9 名】

【 】は 2 4 年度

○ 平成 2 6 年度 神宮幼稚園	入園児数並び 在園児数	8 9 名	【 1 0 5 名】
-------------------	----------------	-------	------------

五十鈴川幼稚園園児数内訳

3 歳児	1 1 名	【 1 4 名】
4 歳児	1 4 名	【 1 1 名】
	(うち、新入 1 名)	
5 歳児	1 1 名	【 2 6 名】
合 計	3 6 名	【 5 1 名】

高倉山幼稚園園児数内訳

3 歳児	1 6 名	【 2 3 名】
4 歳児	2 3 名	【 1 4 名】
5 歳児	1 4 名	【 1 7 名】
合 計	5 3 名	【 5 4 名】

【 】は 2 5 度末

※ 4 月 1 日現在

平成25年度行事

神宮五十鈴川幼稚園

月 日	幼 稚 園	双 葉 会
4月		
9(火)	始業式	
11(木)	入園式【写真1】	
17(水)	宇治神社参拝（進級児）	
18(木)	鯉のぼりとあそぼう【写真2】	
22(月)	五月人形記念撮影 家庭訪問・面談開始（～24日）	
25(木)	入園進級奉告参拝（内宮・御神楽奉納）	会長・副会長参加
26(金)		新旧本部役員引き継ぎ（9：10～）
5月		
7(火)	鯉のぼりをいただく（園にて）	
14(火)	宇治神社参拝（進級児）	
16(木)	内科健診 13：00～	3歳児給食試食会／健診付添
17(金)		第1回役員会（予算審議、他）14：45～
20(月)	お誕生会（4・5月生まれ）	
21(火)		伊勢私幼P連総会 正副会長出席
22(水)	春の遠足—外宮へ入園進級奉告参拝 園児と職員のみ	
23(木)	歯科検診 13：00～	
24(金)		第1回双葉会総会 14：00～
29(水)	交通安全教室（10：00～）	新入園児保護者付添
30(木)	田植え	
31(金)	災害時園児引き渡し訓練	
6月		
3(月)	宇治神社参拝（全園児）	
9(日)	親子であそぼう（父の日参観）進修小体育館	
11(火)	さつま芋つるさし（年長）	
13(木)		第1回双葉会研修会 10：00～
19(水)	内宮参拝	
7月		
2(火)	宇治神社参拝	
5(金)	七夕記念撮影（10：00～）【写真3】	
10(水)	お誕生会（6・7月生まれ）	
11(木)	創立記念：内宮参拝	
12(金)		第2回役員会（夏まつりについて）14：00～
17(水)	入園説明会	
20(土)	合同夏祭り（高幼と）	役員手伝い
22(月)	第1学期終業式	
23(火)	夏季預かり保育開始	
8月		
26(月)	第2学期始業式	
9月		
3(火)	教育実習開始（～10月1日）	
5(木)	内宮参拝・宇治神社遙拝	
6(金)	お誕生会（8・9月生まれ）	
13(金)	来年度入園児面接	
18(水)	入園許可日	
20(金)		第3回役員会（運動会について）14：00～
21(土)	進修小始、各小学校学校運動会（年長児参加）	
25(水)		園庭奉仕作業
26(木)	運動会	役員手伝い
27(金)	稲刈り	
10月		
2(水)	内宮「遷御の儀」の為休園	
5(土)	外宮「遷御の儀」の為休園	
10(木)	秋の親子遠足（鳥羽水族館）	

17(木)	神嘗祭休園	
18(金)	神嘗祭内宮参拝（初稻奉納）【写真4】	
31(木)	お芋ほり	年長役員手伝い
11月		
6(水)	焼き芋：お誕生会（10・11月生まれ）	
11(月)	就労体験学習（五十鈴中学生）～13日	
15(金)	七五三参拝（内宮参拝）	御神楽奉納（園児のみ）
21(木)		役員会（おもちゃつきについて）14：00～
27(水)	生活発表会	
12月		
4(水)		おもちゃつき準備（役員）
5(木)	お餅つき	役員並び年長保護者
13(金)	雑煮会	役員手伝い
18(水)	お楽しみ会：カレーパーティ	
20(金)	第2学期終業式	
1月		
9(木)	第3学期始業式	
17(金)	お誕生会（12・1月生まれ）	
21(火)	初詣内宮参拝	
23/24	木工遊び（年長）	
28(火)	卒園記念製作（年長）	
30(木)	豆炒り	
31(金)	豆まき	会長・副会長手伝い
2月		
4(火)	『1年生になったら』収録（年長）	
5(水)	保育参観：お誕生会（2・3月生まれ）	
6(木)	宇治神社参拝	
13(金)	進修小学校訪問（年長）	
17(月)	祈年祭内宮参拝	
19(水)	入園準備説明会	
21(金)	お店やさんごっこ	
24(月)	お雛様記念・卒園記念撮影	会長・副会長
26(水)		第2回双葉会研修会（10：00～）
3月		
6(木)	お別れ会サンドイッチパーティ【写真5】	
7(金)	卒園奉告参拝（内宮：お神楽奉納） 在園児：宇治神社参拝	年長保護者付添・会長
11(火)		第4回役員会（決算案審議，他）
13(木)		最終総会決算報告
17(月)	卒園式【写真6】	
19(水)	内宮参拝	
25(火)	平成25年度修了式	



【写真1】入園式（年少・式後）



【写真2】鯉のぼりとあそぼう



【写真3】七夕記念撮影



【写真4】神嘗祭内宮参拝（初穂奉納）



【写真5】お別れ会サンドイッチパーティ



【写真6】卒園式

平成25年度行事

神宮高倉山幼稚園

月 日	幼 稚 園	若 竹 会
4月		
9(火)	始業式	
10(水)	外宮参拝	
12(金)	入園式【写真1】	
18(木)	こいのぼりとあそぼう 家庭訪問・個別懇談開始(～26日)	
19(金)	月夜見宮参拝(春の大祭)-年長・年中	
26(金)	五月人形記念撮影【写真2】	
30(火)	避難訓練	
5月		
1(水)	入園進級報告参拝(外宮・御神楽奉納)	
10(金)		第1回役員委員会(予算審議、他)15:00～
13(月)	内科検診 13:00～	
16(木)	春の遠足-内宮へ入園進級報告参拝 参拝後五十鈴公園へ【写真3】	遠足への参加
21(火)		第1回若竹会総会 14:00～ 伊勢私幼P連総会 会長出席
23(木)	交通安全教室	交通安全教室3歳児のみ付添 3歳児給食試食会
24(金)	神宮ばら園見学	
28(火)	避難訓練	
30(木)	田植え	
6月		
3(月)	外宮参拝	
11(火)	さつまいもつるさし(年長児)	三私幼P連新旧役員会 前会長出席
13(木)	歯科検診 10:00～	
15(土)	親子であそぼう 父の日行事・厚生小体育館【写真4】	行事への参加(主に父)
17(月)	外宮参拝	
18(火)		伊勢私幼P連会長会議 会長出席
20(木)	お誕生会(4・5・6月生)	
25(火)	親子で人形劇観劇	若竹会研修会として保護者参加
27(木)	園外保育 せんぐう館見学	
28(金)	避難訓練	
7月		
1(月)	外宮参拝	
5(金)	七夕記念写真撮影	第2回役員委員会(夏まつりについて)3:00～
12(金)	入園説明会	
16・17	夏まつりの踊りのおけいこ	保護者参加
17(水)	外宮参拝	
19(金)	一学期終業式	
20(土)	夏まつり-五幼とサンアリーナにて	役員・委員夏まつり手伝い
22(月)	夏季預かり保育開始	
9月		
2(月)	二学期始業式・外宮参拝	
10(火)	月夜見宮参拝 全園児で	
12(木)	避難訓練・災害時引き取り訓練	
14(土)	厚生小始 各小学校運動会(5歳児参加)	
17(火)	稲刈り 伊勢音頭のけいこ	保護者参加
20(金)		第3回役員委員会(運動会について)15:00～
26(木)	運動会	
10月		
1(火)	外宮参拝	
10(木)	お誕生会(7・8・9月生)	

15(火)	神嘗祭外宮参拝	
17(水)	神嘗祭休園	
21(月)	秋の遠足 鳥羽水族館	
30(水)	おいもほり(年長児)	クラス委員おいもほり手伝い
31(木)	避難訓練 園外保育 工場へのどんぐり拾い	
11月		
1(金)	やきいも大会	
5(火)	外宮参拝	
6(水)	年長お弁当会 親子でカレーづくり	
7(木)	年中お弁当会 親子でおにぎりづくり	
15(金)	七五三参拝・御神楽	
25(月)	おゆうぎ会予行練習	
28(木)	おゆうぎ会	
12月		
2(月)	外宮参拝	
3(火)		おもちつき用米かし 委員手伝い
4(水)	おもちつき(親子で)	役員・委員おもちつき手伝い
6(金)	お雑煮会	
12(木)	お誕生会(10・11・12月生)	
13(金)	年長 厚生小学校との交流会	
17(火)	外宮参拝	
20(金)	二学期終業式	
1月		
8(水)	三学期始業式・外宮参拝	
16(木)	こままわし大会	
21(火)	年長 木工あそび(22日)	
28(火)	避難訓練	
30(木)	年長一年生になったらの収録	
31(金)	節分豆まき用豆煎り(焙烙で)	
2月		
3(月)	節分・豆まき【写真5】	本部役員3名 鬼役・福の神の手伝い
4(火)	外宮参拝	
6(木)		三私幼P連中央研修会 会長・委員3名参加
13(木)	お誕生会(1・2・3月生)	
17(月)	祈年祭 外宮参拝	
21(金)	一日入園(入園説明会)	
26(水)	卒園記念・ひなまつり写真撮影	
28(金)	避難訓練	
3月		
3(月)	外宮参拝	
6(木)		第4回役員委員会(決算審議について)15:00～
7(金)	お別れ会	
8(土)	年長 卒園報告参拝・お祝い会	年長保護者参加
11(火)		年長保護者清掃奉仕 13:00～ 第2回若竹会総会 14:00～ 年長保護者参加
18(火)	卒園式【写真6】	
20(木)	外宮参拝	
25(火)	平成25年度修了式	



【写真1】入園式（年少・式後）



【写真2】五月人形記念撮影



【写真3】春の遠足（内宮・宇治橋前）



【写真4】親子で遊ぼう（父の日行事）



【写真5】節分・まめまき



【写真6】卒園式



神宮公益事業報告書

発行日 平成 26 年 7 月 21 日

編 集 神宮司庁

印 刷 株式会社 アイブレーション